

## 8.6 動物

### 8.6.1 現況調査

既存資料及び現地調査により、調査地域の動物の状況を調査した。

#### 1. 調査内容

動物の調査は、蒲生干潟及び七北田川河口における「動物相」について実施した。

#### 2. 調査方法

##### (1) 既存資料調査

「グリーン復興プロジェクトしおかぜ自然環境ログ」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）の「平成27年度 東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査報告書」（環境省、平成28年）等の既存資料から、蒲生干潟及び七北田川河口に生息する動物種を確認した。

##### (2) 現地調査

動物（哺乳類、鳥類（鳥類相及び猛禽類）、爬虫類・両生類、昆虫類、魚類、底生動物）について、現地調査を行った。調査方法は、第8.6-1表のとおりである。

第8.6-1表 調査方法（動物：現地調査）

調査内容	内容
(1) 哺乳類	調査範囲内を任意に踏査し、フィールドサイン、鳴き声、又は個体を直接目撃することにより、確認位置及び確認形態などの記録を行った。
(2) 鳥類（鳥類相）	a. ラインセンサス 第8.5-1図のとおり、計画地及びその周辺にL1、調査範囲内にL2の2本のルートを設定した。設定したルートを時速約1.5km/hの速度で歩行し、目撃や鳴き声により種名、個体数を記録した。調査は、さえずりや採餌が活発に行われる早朝に実施した。 b. ポイントセンサス 第8.5-1図のとおり、計画地近傍にSt.1、調査範囲内にSt.2とSt.3の計3定点を設定した。観察定点に30分間留まり、目撃や鳴き声により種名、個体数を記録した。
(3) 鳥類（猛禽類）	計画地近傍の定点（St.1）において、双眼鏡、望遠鏡を用いて調査を行った。希少猛禽類の飛翔が確認された場合は、主に飛翔ルートを観察するとともに、可能な範囲内で種名、雌雄別、行動等を記録した。
(4) 爬虫類・両生類	調査範囲内を任意に踏査し、目撃や鳴き声により種名、個体数を記録した。
(5) 昆虫類	調査範囲内を任意に踏査し、主に草本に生息する種を対象とするスウィーピング法や、目撃した昆虫類を採集する見つけ取り法を実施した。また、鳴き声や目視による同定が容易な種については、採集せずにその場で記録した。
(6) 魚類	調査範囲内において、投網、タモ網、定置網等を用いた捕獲調査を実施した。捕獲した魚類は体長計測、写真撮影を行った。
(7) 底生動物	調査範囲内において、タモ網を用いた採集のほか、スコップで底質を掘り返す任意採集を行った。調査日は、潮位差が大きくなる大潮の日の前後に設定した。

#### 3. 調査地域及び調査地点

##### (1) 既存資料調査

動物の既存資料調査における調査地域及び調査地点は、蒲生干潟及び七北田川河口とした。

## (2) 現地調査

動物の現地調査における調査地域は、蒲生干潟及び七北田川河口とした。調査地域は、第 8.5-1 図のとおりである。また、鳥類の現地調査範囲は計画地、その周辺約 200m の範囲の上空を含んだ地域とした。

## 4. 調査期間等

### (1) 既存資料調査

動物の既存資料調査における調査期間は特に設けないものとした。

### (2) 現地調査

動物の現地調査における調査期間は、第 8.6-2 表のとおりである。

第 8.6-2 表 調査期間

調査内容	調査期間
(1) 哺乳類	春季：平成 30 年 5 月 14 日 夏季：平成 30 年 8 月 3 日 秋季：平成 30 年 10 月 5 日
(2) 鳥類（鳥類相）	冬季：平成 30 年 2 月 5 日 春季：平成 30 年 5 月 14 日 夏季：平成 30 年 7 月 13 日 秋季：平成 30 年 10 月 5 日
(3) 鳥類（猛禽類）	冬季：平成 30 年 2 月 6 日～8 日 春季：平成 30 年 5 月 14 日～16 日 夏季：平成 30 年 7 月 30 日～8 月 1 日 秋季：平成 30 年 10 月 2 日～4 日
(4) 爬虫類・両生類	春季：平成 30 年 5 月 14 日 夏季：平成 30 年 8 月 3 日 秋季：平成 30 年 10 月 5 日
(5) 昆虫類	春季：平成 30 年 5 月 14 日 夏季：平成 30 年 8 月 12 日 秋季：平成 30 年 10 月 12 日
(6) 魚類	冬季：平成 30 年 2 月 5 日～6 日 春季：平成 30 年 5 月 14 日～15 日 夏季：平成 30 年 8 月 12 日～13 日 秋季：平成 30 年 10 月 15 日～16 日
(7) 底生動物	春季：平成 30 年 5 月 14 日～15 日 夏季：平成 30 年 6 月 27 日～29 日 秋季：平成 30 年 9 月 10 日～11 日

## 5. 調査結果

### (1) 既存資料調査

既存資料の調査結果は「第6章 地域の概況 6.1 自然的状況 6.1.4 生物環境の状況 2. 動物」のとおりである。

### (2) 現地調査

#### ① 哺乳類

春季調査では1目1科1種、夏季調査では1目1科2種、秋季調査では1目1科2種、合計1目1科2種の哺乳類が確認された（第8.6-3表参照）。

第8.6-3表 哺乳類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	季別確認状況			確認形態
					春季	夏季	秋季	
1	ネコ(食肉)	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>		○	○	足跡
2			キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	○	○	○	目撃、足跡、糞
-	1目	1科	2種	-	1種	2種	2種	-

注：種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省 2018年）に準拠した。

#### ② 鳥類

##### a. 鳥類相

冬季調査では9目18科34種、春季調査では10目20科38種、夏季調査では9目22科31種、秋季調査では10目19科32種、合計13目27科63種の鳥類が確認された（第8.6-4表(1)～(2)参照）。

第8.6-4表(1) 鳥類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	季別確認状況			
					冬季	春季	夏季	秋季
1	キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>		○		
2	カモ	カモ	コクガン	<i>Branta bernicla</i>	○			
3			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	○			
4			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	○			
5			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○			○
6			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>		○	○	○
7			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	○			○
8			コガモ	<i>Anas crecca</i>	○	○		○
9			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	○			
10			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	○			
11			スズガモ	<i>Aythya marila</i>	○	○		
12			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	○			
13			カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○	○
14	カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>			○			
15	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	○
16			カワラバト	<i>Columba livia</i>		○		
17	ミズナギドリ	ミズナギドリ	フルマカモメ	<i>Fulmarus glacialis</i>			○	
18	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	○	○
19	ペリカン	サギ	ササゴイ	<i>Butorides striata</i>		○	○	

注：種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、2012年）に準拠した。

第 8.6-4 表(2) 鳥類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	季別確認状況					
					冬季	春季	夏季	秋季		
20	ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	○	○		
21			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>		○	○	○		
22			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>				○	○	
23	ツル	クイナ	バン	<i>Gallinula chloropus</i>		○				
24	チドリ	チドリ	ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	○	○				
25			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>			○			
26			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○	○	○	○		
27			メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>			○			
28		セイタカシギ	ソリハシセイタカシギ	<i>Recurvirostra avosetta</i>			○			
29		シギ	オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>				○		
30			チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>			○			
31			アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>					○	
32			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>			○	○	○	
33			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○	○	○			
34			キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>			○			
35			ミュビシギ	<i>Calidris alba</i>					○	
36			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>			○			
37			サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>			○			
38			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	○	○			○	
39			カモメ	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>			○	○	○
40				オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>			○	○	○
41		タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○	○		
42			タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	○	○	
43				ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○	○		○	
44	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○			○		
45	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>				○		
46			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>					○	
47	スズメ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>			○	○		
48		カラス	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○	○	○		
49			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○		
50		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○	○	○		
51		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>			○	○		
52		ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>			○	○		
53			コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>				○		
54		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○			○		
55		ヒタキ	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	○					
56			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>					○	
57		スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○	○		
58		セキレイ	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	○	○		
59		アトリ	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○	○	○	○		
60		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○			
61			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	○					
62			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>			○	○	○	
63			オオジュリン	<i>Emberiza schoenioides</i>	○					
-		13 目	27 科	63 種	-	34 種	38 種	31 種	32 種	

注：種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、2012年）に準拠した。

## b. 猛禽類

本調査で確認された希少猛禽類は、ミサゴ、ノスリ及びチョウゲンボウの3種であった。希少猛禽類の季節別確認回数は第8.6-5表、確認位置等は第8.6-2図(5)～(7)のとおりである。種毎の主な確認状況を以下に示す。

第8.6-5表 希少猛禽類の季節別確認回数

種名	季節別確認回数				合計
	冬季	春季	夏季	秋季	
ミサゴ	6	12	12	23	53
ノスリ	15	8	1	6	30
チョウゲンボウ	0	0	1	3	4
3種	21	20	14	32	87

注：季節別確認回数は各季とも3日間の合計である。

### ・ミサゴ

全季をとおして出現し、合計53回確認されたが計画地周辺での営巣は確認されなかった。主に七北田川や蒲生干潟上空を飛翔し、探餌飛翔、狩り及び餌運搬等の行動が確認された。計画地の利用は上空通過のみであった。

### ・ノスリ

全季をとおして出現し、合計30回確認されたが計画地周辺での営巣は確認されなかった。主に計画地周辺の造成地や七北田川のヨシ原上空、蒲生干潟周辺で確認され、探餌飛翔及び狩り等の行動が確認された。計画地の利用は上空通過のみであった。

### ・チョウゲンボウ

夏季に1回、秋季に3回、合計4回確認され、計画地周辺での営巣は確認されなかった。計画地周辺の市街地や造成地上空における飛翔等が確認された。計画地の利用は上空通過のみであった。

## ③ 爬虫類・両生類

春季調査、夏季調査、秋季調査のいずれにおいても、両生類及び爬虫類は確認されなかった。

## ④ 昆虫類

春季調査では8目36科45種、夏季調査では8目37科61種、秋季調査では8目41科57種、合計8目72科137種の昆虫類が確認された(第8.6-6表参照)。

蒲生干潟周辺の草地や湿地では、アオモンイトトンボやハマベハサミムシ、ヒメアメンボ、ヒウラカメムシ、ジュウサンホシテントウ、コアオマルガタゴミムシ、ヨツボシホソアリモドキ等が確認された。

砂浜では、オオハサミムシやハマベアワフキ、フタホシヒラタアブ、ムネビロスナゴミムシダマシ、カワラケアリ等が確認された。

第 8.6-6 表 昆虫類目別確認種数

目名	春季		夏季		秋季		合計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
トンボ(蜻蛉)	1	1	4	8	2	5	4	11
ハサミムシ(革翅)	2	2	1	1	1	1	2	2
バッタ(直翅)	1	1	8	11	7	10	10	17
カメムシ(半翅)	7	8	4	8	4	4	8	19
チョウ(鱗翅)	2	2	4	8	6	10	7	16
ハエ(双翅)	9	13	2	2	11	16	15	28
コウチュウ(鞘翅)	6	9	10	16	2	2	13	26
ハチ(膜翅)	8	9	4	7	8	9	13	18
8 目	36 科	45 種	37 科	61 種	41 科	57 種	72 科	137 種

⑤ 魚類

冬季調査では 4 目 5 科 10 種、春季調査では 7 目 13 科 26 種、夏季調査では 10 目 25 科 38 種、秋季調査では 5 目 11 科 21 種、合計 10 目 30 科 52 種の魚類が確認された(第 8.6-7 表 (1)~(2) 参照)。

蒲生干潟では 8 目 17 科 31 種の魚類が確認された。ボラ、マハゼ、アシシロハゼ、チチブ、ヒメハゼ、ビリンゴ等の出現頻度が高く確認個体数も比較的多かった。七北田川河口では、10 目 28 科 45 種の魚類が確認された。コノシロ、ボラ、スズキ、マハゼ、ヒメハゼ、クサフグ等の出現頻度が高く確認個体数も比較的多かった。

第 8.6-7 表(1) 魚類の確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	季別確認状況			
					冬季	春季	夏季	秋季
1	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>			○	
2	ニシン	ニシン	コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>		○	○	○
3		カタクチイワシ	カタクチイワシ	<i>Engraulis japonica</i>			○	○
4	コイ	コイ	マルタ	<i>Tribolodon brandtii maruta</i>	○		○	○
5	サケ	アユ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>		○		
6		シラウオ	シラウオ	<i>Salangichthys microdon</i>	○	○	○	
7			イシカワシラウオ	<i>Salangichthys ishikawae</i>			○	
8	トゲウオ	ヨウジウオ	ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegeli</i>			○	
9			サンゴタツ	<i>Hippocampus mohnikei</i>		○		
10	ボラ	ボラ	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>		○	○	○
11			メナダ	<i>Chelon haematocheilus</i>			○	○
12			コボラ	<i>Chelon macrolepis</i>				○
13	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>			○	
14	スズキ	メバル	クロソイ	<i>Sebastes schlegelii</i>	○	○		
15		コチ	マゴチ	<i>Platycephalus sp.2</i>	○		○	○
16		スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>		○	○	○
17		サンフィッシュ	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>			○	
18		アジ	ブリ	<i>Seriola quinqueradiata</i>			○	
19			ギンガメアジ	<i>Caranx sexfasciatus</i>			○	
20		タイ	クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>			○	○

注：種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2018 年)」に準拠した。

第 8.6-7 表(2) 魚類の確認種一覧

No.	目名	科名	和名	学名	季別確認状況				
					冬季	春季	夏季	秋季	
21	スズキ	ニベ	ニベ	<i>Nibea mitsukurii</i>			○		
22		シマイサキ	コトヒキ	<i>Terapon jarbua</i>			○	○	
23			シマイサキ	<i>Rhyncopelates oxyrhynchus</i>				○	
24		イシダイ	イシダイ	<i>Oplegnathus fasciatus</i>			○		
25		メジナ	メジナ	<i>Girella punctata</i>			○		
26		アイナメ	アイナメ	<i>Hexagrammos otakii</i>		○			
27		カジカ	アサヒアナハゼ	<i>Pseudoblennius cottoides</i>		○			
28		ニシキギンポ	ギンポ	<i>Pholis nebulosa</i>		○			
29			タケギンポ	<i>Pholis crassispinia</i>		○			
30		イソギンポ	イソギンポ	<i>Parablennius yatabei</i>			○	○	
31		ネズッポ	ハタタテヌメリ	<i>Repomucenus valenciennae</i>			○		
32		ハゼ	ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>		○			
33			ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i>		○	○	○	
34			シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i>		○			
35			マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>		○	○	○	○
36			アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>		○	○	○	
37			アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>		○	○		
38			シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>		○	○	○	
39			ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>				○	○
40			チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>		○	○	○	○
41			ツマグロスジハゼ	<i>Acentrogobius sp.2</i>				○	○
42	ヒメハゼ		<i>Favonigobius gymnauchen</i>		○	○	○	○	
43	ビリンゴ		<i>Gymnogobius breunigii</i>		○	○	○	○	
44	エドハゼ		<i>Gymnogobius macrognathos</i>		○	○			
45	カマス	アカカマス	<i>Sphyraena pinguis</i>			○			
46	カレイ	ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>			○			
47		カレイ	ヌマガレイ	<i>Platichthys stellatus</i>		○	○		
48			イシガレイ	<i>Kareius bicoloratus</i>		○			
49			マコガレイ	<i>Pleuronectes yokohamae</i>		○			
50	ウシノシタ	クロウシノシタ	<i>Paraplagusia japonica</i>			○			
51	フグ	フグ	ゴマフグ	<i>Takifugu stictonotus</i>			○		
52			クサフグ	<i>Takifugu alboplumbeus</i>		○	○	○	
-	10 目	30 科	52 種	-	10 種	26 種	38 種	21 種	

注：種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2018 年)」に準拠した。

## ⑥ 底生動物

春季調査で 23 目 43 科 58 種、夏季調査で 20 目 52 科 69 種、秋季調査で 18 目 42 科 58 種、合計 27 目 63 科 88 種の底生動物が確認された（第 8.6-8 表(1)～(3)参照）。

蒲生干潟では、72 種の底生動物が確認された。砂泥底部ではミズヒキゴカイやホソウミナナ、アサリ、コメツキガニ等が、ヨシ原でクリイロカワザンショウガイやアシハラガニ、クロベンケイガニ等が確認された。また、干潟の広範囲でアナジャコ類の巣孔が確認された。潮間帯の転石にはマガキが付着し、その隙間からはウネナシトマヤガイやシロスジフジツボ、タカノケフサイソガニが確認された。

七北田川河口部周辺では、41 種の底生動物が確認された。砂泥部ではイソシジミやヤマトカワゴカイ、スナガニ等が、潮間帯の転石付近ではタマキビガイやマガキ、タカノケフサイソガニ等が確認された。泥底部ではヒメヤマトカワゴカイやソトオリガイ、ヨコヤアナジャコの巣孔が確認された。

七北田川河口部上流側のヨシ原周辺では、42 種の底生動物が確認された。このうち、砂泥底部ではイトメやヤマトシジミ、ソトオリガイ、Notomastus 属等が、ヨシ原ではカワザンショウガイやヒナタムシヤドリカワザンショウガイ、クリイロカワザンショウガイ、クロベンケイガニ等が、潮間帯の転石下ではキタフナムシやケフサイソガニ、ヒゲツノメリタヨコエビ等が確認された。また、貞山掘合流部付近の泥底部ではアナジャコ類の巣孔やカワゴカイ類の棲管が確認され、左岸側の土手ではアシハラガニやクロベンケイガニ、アカテガニ等が確認された。

第 8.6-8 表(1) 底生動物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	季別確認状況		
					春季	夏季	秋季
1	イギンチャク	-	イギンチャク目	Actiniaria sp.			○
2	異紐虫	リネウス	リネウス科	Lineidae sp.	○		
-	-	-	紐形動物門	NEMERTINEA sp.	○	○	○
3	新生腹足	ウミナ	ホソウミナ	<i>Batillaria attramentaria</i>		○	○
4		ウミナ	ウミナ	<i>Batillaria multiformis</i>	○	○	○
5		タマキビ	タマキビガイ	<i>Littorina brevicula</i>	○	○	○
6		ワカウツボ	ササナミツボ	<i>Nozema ziczac</i>	○	○	○
7		カワザンショウガイ	クリイロカワザンショウガイ	<i>Angustassiminea castanea</i>	○	○	○
8		ツブカワザンショウガイ	ツブカワザンショウガイ	<i>Assiminea estuarina</i>			○
9		カワザンショウガイ	カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>	○		○
10		ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ	ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ	<i>Assiminea aff. parasitologica</i>	○	○	○
11		ヨシダカワザンショウガイ	ヨシダカワザンショウガイ	<i>Assiminea yoshidayukioi</i>	○	○	○
12		カワザンショウガイ属	カワザンショウガイ属	<i>Assiminea sp.</i>	○	○*	○*
13	ムシロカイ	アラムシロカイ	<i>Nassarius festivus</i>		○		
14	真後鰓	ヘコミツラガイ	マツマコメツブ	<i>Retusa matsusimana</i>	○	○	○
15	カガイ	カガイ	ホトキスガイ	<i>Arcuatula senhousia</i>	○		
16			ムラサキガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	○	○	○
17	ウグイスガイ	イボガキ	マカキ	<i>Crassostrea gigas</i>	○	○	○

- 注：1. 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度生物リスト」（国土交通省、平成 30 年）に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
2. ~sp. は同科、同属等の種が確認されている場合は種数に計上しなかった。
3. 夏季及び秋季に確認されたカワザンショウガイ属は、その形状から宮城県内に生息するマツシマカワザンショウ、マンゴクウラカワザンショウ、マツカワウラカワザンショウのいずれかである可能性が高いが、分類が未整理のため属止めとし、同属のヒナタムシヤドリカワザンショウガイ等とは別種のため、種数に計上した。



第 8.6-8 表(2) 底生動物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	季別確認状況		
					春季	夏季	秋季
18	マルスタレカイ	ウロコカイ	ウロコカイ科	Galeommatidae sp.	○	○	
19		フナカタカイ	ウネナシトマヤカイ	<i>Trapezium liratum</i>	○	○	○
20		シジミ	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	○	○	○
			シジミ属	<i>Corbicula</i> sp.	○		
21		マルスタレカイ	カカミカイ	<i>Phacosoma japonicum</i>	○		
22			アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	○	○	○
23		ニッコウカイ	サビシラトリカイ	<i>Macoma contabulata</i>			○
24			ヒメシラトリカイ	<i>Macoma incongrua</i>	○	○	○
			ニッコウカイ科	Tellinidae sp.	○	○	
25		アサシカイ	シスクカイ	<i>Theora fragilis</i>		○	
26	シオササナミ	イソシジミ	<i>Nuttallia japonica</i>	○	○	○	
27	マテカイ	マテカイ	<i>Solen strictus</i>		○	○	
28	異靱帯	オキナカイ	ソトオリカイ	<i>Laternula marilina</i>	○	○	○
29	オオノカイ	オオノカイ	オオノカイ	<i>Mya arenaria oonogai</i>	○	○	○
30	サシハコカイ	サシハコカイ	サシハコカイ属	<i>Eteone</i> sp.	○	○	○
31		ニカイチロリ	Glycinde 属	<i>Glycinde</i> sp.			○
32		カキコカイ	カキコカイ属	<i>Sigambra</i> sp.	○	○	
33		コカイ	コケコカイ	<i>Ceratonereis erythraeensis</i>	○	○	○
34			ヒメヤマトカワコカイ	<i>Hediste atoka</i>	○	○	○
35			ヤマトカワコカイ	<i>Hediste diadroma</i>	○	○	○
			カワコカイ属	<i>Hediste</i> sp.	○	○	○
36			イトメ	<i>Tylorrhynchus osawai</i>	○	○	○
37		シロカネコカイ	シロカネコカイ属	<i>Nephtys</i> sp.		○	
38		イソメ	キボシイソメ	Scoletoma 属	<i>Scoletoma</i> sp.		○
39	スピオ	スピオ	ヤマトスピオ	<i>Prionospio japonicus</i>	○	○	○
			Prionospio 属	<i>Prionospio</i> sp.		○	
40			Pseudopolydora 属	<i>Pseudopolydora</i> sp.	○	○	○
41		Rhynchospio 属	<i>Rhynchospio</i> sp.	○			
42		ミスヒキコカイ	ミスヒキコカイ	<i>Cirriformia tentaculata</i>		○	○
43	イトコカイ	イトコカイ	イトコカイ属	<i>Capitella</i> sp.	○	○	
44			Heteromastus 属	<i>Heteromastus</i> sp.		○	○
45			Mediomastus 属	<i>Mediomastus</i> sp.	○		
46			Notomastus 属	<i>Notomastus</i> sp.	○	○	○
47	オフェリアコカイ	オフェリアコカイ	Armandia 属	<i>Armandia</i> sp.	○	○	
48	フサコカイ	ウミイサコムシ	ウミイサコムシ	<i>Lagis bocki</i>			○
49	ケヤリムシ	カンザシコカイ	カンザシコカイ科	<i>Serpulidae</i> sp.	○		
50	吻蛭	ウオビル	ヒタビル	<i>Limnotrachelobdella okae</i>	○		
51	ユムシ	ユムシ	ユムシ	<i>Urechis unicinctus</i>	○	○	
52	フジツボ	フジツボ	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>	○	○	
53			シロスジフジツボ	<i>Fistulobalanus albicostatus</i>		○	○
			フジツボ科	Balanidae sp.	○	○	
54	クーマ	シロクーマ	シロクーマ科	Leuconidae sp.	○	○	
55	ヨコエビ	ヒゲナカヨコエビ	モスミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>	○		
			ヒゲナカヨコエビ属	<i>Ampithoe</i> sp.	○	○	
56		ユンボソコエビ	ニッポントロコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>	○	○	○
57		トロクダムシ	Apocorophium 属	<i>Apocorophium</i> sp.		○	
58		キタヨコエビ	ホシエットケオコエビ	<i>Eogammarus possjeticus</i>			○
59		メリタヨコエビ	ヒゲツノメリタヨコエビ	<i>Melita setiflagella</i>	○	○	
60		シミスメリタヨコエビ	<i>Melita shimizui</i>			○	

- 注：1. 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度生物リスト」(国土交通省、平成 30 年)に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
2. ~sp. は同科、同属等の種が確認されている場合は種数に計上しなかった。
3. 夏季及び秋季に確認されたカワザンショウガイ属は、その形状から宮城県内に生息するマツシマカワザンショウ、マンゴクウラカワザンショウ、マツカワウラカワザンショウのいずれかである可能性が高いが、分類が未整理のため属止めとし、同属のヒナタムシヤドリカワザンショウガイ等とは別種のため、種数に計上した。

第 8.6-8 表 (3) 底生動物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	季別確認状況		
					春季	夏季	秋季
61	ヨコエビ <sup>○</sup>	モクス <sup>○</sup> ヨコエビ <sup>○</sup>	モクス <sup>○</sup> ヨコエビ <sup>○</sup> 科	Hyalidae sp.	○	○	
62		ハマトビ <sup>○</sup> ムシ	ヒメハマトビ <sup>○</sup> ムシ属	<i>Platorchestia</i> sp.			○
63		ワレカラ <sup>○</sup>	ワレカラ属	<i>Caprella</i> sp.		○	
64	ワラシ <sup>○</sup> ムシ	コツフ <sup>○</sup> ムシ	イコツフ <sup>○</sup> ムシ属	<i>Gnorimosphaeroma</i> sp.	○	○	○
65		フナムシ	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>		○	
66			フナムシ	<i>Ligia exotica</i>	○	○	
67	アミ	アミ	クロイササ <sup>○</sup> アミ	<i>Neomysis awatschensis</i>	○	○	
68	エビ <sup>○</sup>	テナカ <sup>○</sup> エビ <sup>○</sup>	ユビ <sup>○</sup> ナカ <sup>○</sup> スシ <sup>○</sup> エビ <sup>○</sup>	<i>Palaemon macrodactylus</i>	○	○	○
69		テッポ <sup>○</sup> ウエビ <sup>○</sup>	テッポ <sup>○</sup> ウエビ <sup>○</sup>	<i>Alpheus brevicristatus</i>		○	○
70		エビ <sup>○</sup> シ <sup>○</sup> ヤコ	エビ <sup>○</sup> シ <sup>○</sup> ヤコ属	<i>Crangon</i> sp.	○	○	○
71		ホンヤト <sup>○</sup> カリ	ユビ <sup>○</sup> ナカ <sup>○</sup> ホンヤト <sup>○</sup> カリ	<i>Pagurus minutus</i>		○	
72		アナシ <sup>○</sup> ヤコ	ヨコヤアナシ <sup>○</sup> ヤコ	<i>Upogebia yokoyai</i>		○	○
73		コフ <sup>○</sup> シカ <sup>○</sup> ニ	マメコフ <sup>○</sup> シカ <sup>○</sup> ニ	<i>Philyra pismus</i>	○	○	
74		ワタリカ <sup>○</sup> ニ	カ <sup>○</sup> ザ <sup>○</sup> ミ属	<i>Portunus</i> sp.			○
75		ヘ <sup>○</sup> ンケイカ <sup>○</sup> ニ	クロヘ <sup>○</sup> ンケイカ <sup>○</sup> ニ	<i>Chiromantes dehaani</i>	○	○	○
76			アカテカ <sup>○</sup> ニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>		○	○
77		モクス <sup>○</sup> カ <sup>○</sup> ニ	トリウミ <sup>○</sup> アカイ <sup>○</sup> モト <sup>○</sup> キ	<i>Acmaeopleura toriumii</i>		○	
78			アシハラカ <sup>○</sup> ニ	<i>Helice tridens</i>	○	○	○
79			ケフサイカ <sup>○</sup> ニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	○	○	○
80			タカノケフサイカ <sup>○</sup> ニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>	○	○	○
			イカ <sup>○</sup> ニ属	<i>Hemigrapsus</i> sp.	○		
			モクス <sup>○</sup> カ <sup>○</sup> ニ科	Varunidae sp.			○
81		ムツハリアケカ <sup>○</sup> ニ	アリアケモト <sup>○</sup> キ	<i>Deiratonotus cristatus</i>	○	○	○
82		コメツキカ <sup>○</sup> ニ	チコ <sup>○</sup> カ <sup>○</sup> ニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>	○	○	○
83			コメツキカ <sup>○</sup> ニ	<i>Scopimera globosa</i>	○	○	○
84		オサカ <sup>○</sup> ニ	ヤマトオサカ <sup>○</sup> ニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>			○
			オサカ <sup>○</sup> ニ属	<i>Macrophthalmus</i> sp.		○	
85		スナカ <sup>○</sup> ニ	スナカ <sup>○</sup> ニ	<i>Oecypode stimpsoni</i>		○	○
86	カメムシ(半翅)	アメンホ <sup>○</sup>	ヒメアメンホ <sup>○</sup>	<i>Gerris latiaabdominis</i>	○		
87	ハエ(双翅)	ユスリカ	セホ <sup>○</sup> リュスリカ属	<i>Glyptotendipes</i> sp.			○
88	ホウキムシ	ホウキムシ	ヒメホウキムシ	<i>Phoronis ijimai</i>	○		
-	27 目	63 科	88 種	-	58 種	69 種	58 種

- 注：1. 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度生物リスト」(国土交通省、平成 30 年)に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
2. ~sp. は同科、同属等の種が確認されている場合は種数に計上しなかった。
3. 夏季及び秋季に確認されたカワザンショウガイ属は、その形状から宮城県内に生息するマツシマカワザンショウ、マンゴクウラカワザンショウ、マツカワウラカワザンショウのいずれかである可能性が高いが、分類が未整理のため属止めとし、同属のヒナタムシヤドリカワザンショウガイ等とは別種のため、種数に計上した。

⑧ 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況

a. 調査地域等

蒲生干潟及び七北田川河口とした。

b. 調査方法

重要な種及び重要な群落の選定基準は、第 8.5-4 表のとおりである。

調査地域で生育記録のある植物について、選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から重要な種及び注目すべき生息地を抽出した。

c. 調査結果

現地調査で確認された種を対象として重要な種を選定した結果、哺乳類 1 種、鳥類 20 種、昆虫類 6 種、魚類 6 種、底生動物 21 種の動物が該当した。重要な種の一覧は第 8.6-9 表(1)～(5)、一般生態及び確認状況は第 8.6-10 表(1)～(18)、確認位置は第 8.6-1 図～第 8.6-5 図のとおりである。

第 8.6-9 表(1) 重要な種の選定状況 (哺乳類)

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準								調査時期		
				I	II	III	VII	VIII			春季	夏季	秋季	
								①	②					③
								3	5					
1	ネコ(食肉)	イヌ	タヌキ						・	・	○		○	○
-	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	1 種	1 種	0 種	1 種	1 種

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度生物リスト」(国土交通省、平成 30 年)に準拠した。

2. 重要種選定基準の I～VIII は、第 8.5-4 表の番号 I～VIII に該当する。

第 8.6-9 表(2) 重要な種の選定状況 (鳥類)

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									調査時期			
				I	II	III	VII	VIII			③	冬季	春季	夏季	秋季	
								①	②							
								3	5							
1	カモ	カモ	コクガン	天		VU	VU	1, 2, 4	/	B		○				
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ						B	C	○	○	○	○	○	
3	ペリカン	サギ	コサギ						B	+	○			○	○	
4	ツル	クイナ	バン					1, 4	B	C	○		○			
5	チドリ	チドリ	シロチドリ			VU	NT	1, 4	・	B	○	○	○	○	○	
6			メダイチドリ		国際								○			
7		シギ	サルハマシギ		国際								○			
8			ハマシギ			NT		1, 4	・	C	○	○	○		○	
9	タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT		1, 4	・	C	○	○	○	○		
10		タカ	ノスリ						C	・	○	○	○		○	
11	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ					1, 4	C	・	○	○			○	
12	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ					1, 4	B	B					○	
13			ハヤブサ		国内	VU	NT	1, 4	B	B						○
14	スズメ	モズ	モズ					1	B	C	○			○	○	
15		ヒバリ	ヒバリ						B	C	○	○	○	○	○	
16		ツバメ	ツバメ						C	・	○		○	○		
17		ヨシキリ	オオヨシキリ					1, 4	B	C	○		○	○		
18			コヨシキリ					1, 4	A	C	○			○		
19		ホオジロ	ホオジロ						B	C	○	○	○	○		
20			アオジ						C	C	○		○	○	○	
-		9 目	15 科	20 種	1 種	3 種	5 種	3 種	11 種	17 種	17 種	15 種	9 種	13 種	11 種	11 種

注：1. 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会 2012年)に準拠した。  
 2. 重要種選定基準の資料Ⅷの②について、「+：普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種」及び「/：もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい種」以外の種数を計上した。  
 3. 重要種選定基準のⅠ～Ⅷは、第 8.5-4 表の番号Ⅰ～Ⅷに該当する。

第 8.6-9 表(3) 重要な種の選定状況 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	重要種選定基準									調査時期		
				I	II	III	VII	VIII			③	春季	夏季	秋季	
								①	②						
								3	5						
1	トンボ(蜻蛉)	トンボ	アキアカネ						・	・	○			○	
2			ノシメトンボ						・	・	○			○	
3	ハッパ(直翅)	ハッパ	ヤマトマダラハッパ				VU	2	・	C	○		○		
4	カメシ(半翅)	ヨコバイ	スナヨコバイ			NT	CR+EN		・	・		○			
5	コウチュウ(鞘翅)	ハシシヨウ	カラハシシヨウ			EN	CR+EN	1	・	C	○		○		
6		ゴミシタマシ	ハマヒョウタンゴミシタマシ						・	C	○		○		
-	4 目	5 科	6 種	0 種	0 種	2 種	3 種	2 種	6 種	6 種	5 種	1 種	3 種	2 種	

注：1. 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度生物リスト」(国土交通省、平成 30 年)に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。  
 2. 重要種選定基準のⅠ～Ⅷは、第 8.5-4 表の番号Ⅰ～Ⅷに該当する。



第 8.6-10 表(1) 重要な種の一般生態及び確認状況（哺乳類）

種名	項目	内容
タヌキ	全国の分布状況	北海道、本州、四国、九州、奥尻島、佐渡などに分布
	仙台市内の分布状況	泉区朴沢、青葉区蕃山、太白区秋保町境野、宮城野区鶴ヶ谷、若林区種次など
	一般生態	郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息し、鳥類、ノネズミ類、昆虫、野生果実類などを採食する。排泄物を特定の場所に集中しておこなうタメ糞をする。春に3~5仔を出産する。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 調査範囲近傍の造成地の2地点で足跡が確認された。 (秋季) 砂浜や蒲生干潟の10地点で足跡が確認された。

出典：「日本の哺乳類 [改訂2版]」（東海大学出版会、平成20年）

第 8.6-10 表(2) 重要な種の一般生態及び確認状況（鳥類・鳥類相調査）

種名	項目	内容
コクガン	全国の分布状況	冬鳥として主に北海道、本州、佐渡島に渡来する。
	仙台市内の分布状況	東部海岸、七北田川河口、蒲生
	一般生態	海岸の入り江や内湾の砂浜、遠浅の砂泥地に生息する。岩礁にあるアオサやイワノリなどの海藻や、マコモなどの水草を好んで食べる。淡水域で体についた塩分を落とすため水浴びをし、陸に上がるか、沖合で休息する。
	確認状況	(冬季) 七北田川河口の1地点で4個体が確認された。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 確認されなかった。
カイツブリ	全国の分布状況	ほぼ全国的に分布し、北海道から九州の各地で普通に繁殖する。北海道と本州北部では夏鳥、本州中部以南では留鳥。
	仙台市内の分布状況	朴沢、丸田沢、旗立、井戸浦、大沼、蒲生など
	一般生態	平地から山地の湖沼、池、河川、河口、内湾などに生息する。潜水して魚類や甲殻類、昆虫類などを食べる。水草や杭などの上に、水草の葉や茎を利用して、水に浮いているように見える巣をつくり繁殖する。
	確認状況	(冬季) 蒲生干潟北側の湛水域の1地点で5個体が確認された。 (春季) 蒲生干潟北側の湛水域で1個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟北側の湛水域で1個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟北側の湛水域の2地点で合計5個体が確認された。
コサギ	全国の分布状況	本州以南で留鳥または漂鳥。北海道では稀な夏鳥
	仙台市内の分布状況	広瀬川、名取川、天神沢、大沼、赤沼、蒲生二木、蒲生海岸など。
	一般生態	河川、水田、湖沼、池、湿地、河口、干潟、海岸などに生息する。水辺を歩いて魚類やザリガニ、カエル、昆虫類などを食べる。ほかのサギ類と一緒にマツ林、雑木林などの樹上で集団繁殖することが多い。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 蒲生干潟北側及び中央の湛水域の2地点で合計2個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟北側及び中央の湛水域の4地点で合計9個体が確認された。

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>」（保育社、平成7年）

「山溪ハンディ図鑑7 新版日本の野鳥」（山と溪谷社、平成26年）

「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成29年）

第 8.6-10 表(3) 重要な種の一般生態及び確認状況（鳥類・鳥類相調査）

種名	項目	内容
バン	全国の分布状況	北海道、本州北部では夏鳥、関東地方以南では留鳥。
	仙台市内の分布状況	大沼、赤沼、広瀬川、台原、井戸浦、笹屋敷、蒲生など
	一般生態	湖沼や河川、水田、ハス田などのヨシやガマが生育する湿地に生息する。水面を泳いだり、水辺を歩いたりしながら、水草の葉、茎、種子を食べるほか、水辺の昆虫や貝、甲殻類、ミミズなども採食する。ヨシやマコモ、イ、ガマなどの草むらや水田に枯草を積み上げて、皿形の巣をつくり繁殖する。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 蒲生干潟北側の湛水域の 1 地点で 2 個体が確認された。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 確認されなかった。
シロチドリ	全国の分布状況	留鳥または漂鳥。中部地方以北では夏鳥。
	仙台市内の分布状況	朴沢、丸田沢、旗立、井戸浦、大沼、蒲生など
	一般生態	海岸の砂浜、河口、干潟、河川、沿岸の造成地や埋立地などに生息する。せわしなく歩き回り、昆虫類や甲殻類、ミミズ、ゴカイ類、小型の貝類、波打ち際の横エビ類などを食べる。漂流物の間や疎らな草の間などの浅い窪みに木片、小石、貝殻片などを敷いて巣をつくり、繁殖する。
	確認状況	(冬季) 蒲生干潟の 1 地点で 19 個体が確認された。 (春季) 砂浜で 1 個体が確認された。 (夏季) 砂浜で 1 個体が確認された。 (秋季) 砂浜の 2 地点で合計 30 個体が確認された。
メダイチドリ	全国の分布状況	旅鳥として全国に渡来するが、南西諸島などでは越冬するものもいる。
	仙台市内の分布状況	蒲生
	一般生態	海岸の砂浜や干潟、河口部、埋立地、水田、湿地などに生息する。地上を歩き回り、ゴカイ類や貝類、甲殻類、昆虫類などを捕食する。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 蒲生干潟の 3 地点で合計 8 個体が確認された。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 確認されなかった。
サルハマシギ	全国の分布状況	旅鳥として少数が渡来する。
	仙台市内の分布状況	蒲生
	一般生態	海岸砂浜の水たまり、河口や入り江の干潟、池沼の砂泥地に生息する。立ち止まっては嘴で探りを入れ、ゴカイ類、小貝類、甲殻類を食べる。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 蒲生干潟で 1 個体が確認された。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 確認されなかった。

出典：「原色日本野鳥生態図鑑〈水鳥編〉」（保育社、平成 7 年）

「山溪ハンディ図鑑 7 新版日本の野鳥」（山と溪谷社、平成 26 年）

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

第 8.6-10 表(4) 重要な種の一般生態及び確認状況（鳥類・鳥類相調査）

種名	項目	内容
ハマシギ	全国の分布状況	旅鳥として全国に渡来する。北海道から南西諸島に至る各地の海岸や内陸の河川で少数が越冬する。
	仙台市内の分布状況	朴沢、丸田沢、旗立、井戸浦、大沼、蒲生など
	一般生態	干潟や河口、汽水湖、海岸の砂浜や岩場、水田、湿地、河川、湖沼や池の湿泥地などに生息する。忙しく動きまわって、貝類やゴカイ類などを食べる。淡水域でも浅い水の中に入って陸生貝類や甲殻類、ミミズ類、昆虫類の幼虫などを食べる。
	確認状況	(冬季) 蒲生干潟の 2 地点で合計 85 個体確認された。 (春季) 蒲生干潟の 2 地点で合計 4 個体が確認された。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 蒲生干潟の 2 地点で合計 4 個体が確認された。
ミサゴ	全国の分布状況	全国の水辺に周年生息するが、冬季は暖地へ移動するものが多い。南西諸島では冬鳥。
	仙台市内の分布状況	蒲生、広瀬川、大沼、三共堤、七北田川、名取川など
	一般生態	主に海岸や河口、湖沼、池、河川などに生息する。ボラやスズキ、トビウオなどの魚類を餌とし、水面近くに浮上した魚を、ダイビングしたりすくいとったりして捕らえる。海岸や山中で繁殖し、大岩の頂や樹幹部に営巣し繁殖する。
	確認状況	(冬季) 七北田川沿いを飛翔する 1 個体が確認された。 (春季) 蒲生干潟及び七北田川上空の 4 地点で合計 4 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟東側の海岸線及び七北川上空の 2 地点で合計 2 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。
ノスリ	全国の分布状況	北海道から四国で繁殖し、秋、冬には全国に分散。
	仙台市内の分布状況	青葉山、県民の森、十里平、広瀬川、井戸浦、蒲生、名取川など
	一般生態	平地から亜高山帯の林に生息する。生息地付近の荒地や河原、耕作地等で狩りを行う。木にとまったり、帆翔しつつ餌を探し、ネズミ類やカエル類、ヘビ類、鳥類等を捕食する。アカマツやカラマツ、モミ、ミズナラ、ブナなどの地上 7~15m 位の幹の叉部もしくは樹上に円形の巣をつくり繁殖する。
	確認状況	(冬季) 蒲生干潟の枯木にとまる個体が 2 地点で合計 2 個体確認された。 (春季) 貞山堀周辺の道路沿いの電柱にとまる 1 個体が確認された。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 貞山堀周辺の道路沿いの電柱にとまる 1 個体が確認された。
カワセミ	全国の分布状況	留鳥または漂鳥として本州以南に分布し、北海道では夏鳥として分布。
	仙台市内の分布状況	広瀬川、名取川、策川、二口峡谷、月山池周辺、台原、七北田川、蒲生、南長沼、長沼、将藍沼、大倉川、青下ダム、小松島新堤沼、梅田川、与兵衛沼、鶴ヶ谷、南蒲生など
	一般生態	海岸から低山の河川、湖沼、池などに生息する。水辺の杭や枝などにとまるほか、水面上での停空飛行を行って餌を探し、水面に飛び込んで餌を捕まえる。ウグイやオイカワなどの魚の他、ザリガニ、カエル、エビなども食べる。水辺の土質の崖に横穴を掘り繁殖する。
	確認状況	(冬季) 蒲生干潟上空を飛翔する 1 個体が確認された。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 蒲生干潟北側の湛水域で 1 個体が確認された。

出典：「原色日本野鳥生態図鑑〈水鳥編〉」（保育社、平成 7 年）

「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社、平成 7 年）

「山溪ハンディ図鑑 7 新版日本の野鳥」（山と溪谷社、平成 26 年）

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）



第 8.6-10 表(5) 重要な種の一般生態及び確認状況（鳥類・鳥類相調査）

種名	項目	内容
チョウゲンボウ	全国の分布状況	留鳥または漂鳥。北海道、東北地方から中部地方にかけての本州で繁殖しているが、北海道では少ない。
	仙台市内の分布状況	東部平野の建造物、朴沢、芋沢、蒲生など
	一般生態	平地から高山の草地、農耕地、河原、埋立地などに生息する。ネズミ類のほか、鳥類やカエル、トカゲ、昆虫類なども捕らえる。巢は崖の岩棚や穴、大木の樹洞、建造物の穴などにつくる。繁殖条件の良い場所では、集団繁殖する。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 砂浜の上空を飛翔する 2 個体が確認された。
ハヤブサ	全国の分布状況	北海道から九州北西部の島嶼まで広く分布し、特に東北地方と北海道の沿岸部に多い。多くは留鳥として繁殖するが、一部暖地の海岸や平野部に移動する個体もいる。
	仙台市内の分布状況	青葉山、経ヶ峰、四郎丸、井戸浦、蒲生、大沼、仙台港、広瀬川、三神峯、荒井、台原、大年寺山、小鶴、南蒲生など
	一般生態	平地から山地の河川、海岸、湖沼、農耕地などに生息する。餌のほとんどは中型の小鳥で、まれにネズミやウサギを捕まえる。海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚の他、岩礁の頂上や岬先端部の草地や砂地の上に産卵する例もある。近年、都市に進出しており、建造物で営巣しているものも多い。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 蒲生干潟西側の造成地及び蒲生干潟上空を飛翔する個体が 3 地点で合計 4 個体確認された。
モズ	全国の分布状況	全国に留鳥として生息する。北海道では漂鳥。
	仙台市内の分布状況	二口、丸田沢、旗立、芋沢、広瀬川、名取川、青葉山公園、蒲生など
	一般生態	平地から山地の開けた環境に生息する。昆虫類や両生・爬虫類、鳥類、小型の哺乳類などを食べる。低木や藪の中に椀形の巣をつくり繁殖する。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 蒲生干潟北側の 2 地点で合計 3 個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟西側の造成地及び蒲生干潟北側の 3 地点で合計 3 個体が確認された。
ヒバリ	全国の分布状況	留鳥として九州以北で繁殖するが、積雪の多い地方では冬は南下する。北海道では夏鳥。沖縄では旅鳥または冬鳥として分布する。
	仙台市内の分布状況	市内全域で背丈の低い休耕田の草地、丸田沢、芋沢、蒲生など
	一般生態	農耕地や草地、河原などに生息し、露出した地面の多い乾燥地を好み生息する。地上を歩き回りながら、昆虫類やクモ類、植物の種子などをついばむ。草の根本の地上に外径 10cm 程の椀型の巣をつくり繁殖する。
	確認状況	(冬季) 蒲生干潟周辺や計画地周辺の 4 地点で合計 15 個体確認された。 (春季) 蒲生干潟周辺や計画地周辺の 4 地点で合計 4 個体が確認された。 (夏季) 計画地近傍や計画地東側の造成地、砂浜の 6 地点で合計 8 個体が確認された。 (秋季) 計画地近傍や蒲生干潟西側の造成地の 5 地点で合計 13 個体が確認された。

出典：「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社、平成 7 年）

「山溪ハンディ図鑑 7 新版日本の野鳥」（山と溪谷社、平成 26 年）

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

第 8.6-10 表(6) 重要な種の一般生態及び確認状況（鳥類・鳥類相調査）

種名	項目	内容
ツバメ	全国の分布状況	夏鳥として全国に渡来するが、本州中部以南では越冬する。
	仙台市内の分布状況	市街地中心部を除いた全域
	一般生態	市街地や田畑、海岸、河川など様々な環境に生息する。低空を飛び回り、飛翔する昆虫を捕食する。建造物の軒下などに泥土と自分の唾液を使用して椀型の巣をつくる。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 蒲生干潟及び計画地周辺の 4 地点で合計 9 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟周辺の 3 地点で合計 10 個体の飛翔が確認された。 (秋季) 確認されなかった。
オオヨシキリ	全国の分布状況	北海道北・東部と沖縄を除く全国に夏鳥として渡来する。
	仙台市内の分布状況	大倉ダム、川内、米ヶ袋、鶴ヶ谷、田子、将監、名取川、井戸浦、霞目、南長沼、大沼、蒲生など
	一般生態	水辺のヨシ原に生息する。茎から茎へと移動しながら昆虫を捕らえるが、空中に飛び出して飛んでいる昆虫をフライングキャッチすることもある。海岸や河口などの低地の湿原や山地の湖岸、川岸の湿地で普通に繁殖する。ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて椀型の巣をつくる。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 蒲生干潟及び貞山堀周辺の 8 地点で合計 11 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟周辺や七北川沿いの 5 地点で合計 7 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。
コヨシキリ	全国の分布状況	夏鳥として北海道、本州、九州に渡来する。
	仙台市内の分布状況	青葉山、野牛、福田町、井土浦、広瀬川、南長沼、蒲生など
	一般生態	平地から山地の草原、湿原、川原などに生息する。草の茂みの中を動き回り、昆虫類、クモ類などを採食する。ヨモギ、ヒメジュオンなどの丈の高くなる植物の茎に椀型の巣をつくる。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 蒲生干潟や貞山堀周辺の 3 地点で合計 3 個体が確認された。 (冬季) 確認されなかった。
ホオジロ	全国の分布状況	留鳥または漂鳥として、全国に分布する。
	仙台市内の分布状況	秋保町、二口、広瀬川、太白山自然観察の森、大倉、水の森公園、鶴ヶ谷、梅田川、井戸浦、蒲生、丸田沢、朴沢、旗立、芋沢など
	一般生態	平地から山地の農耕地、藪地、草原、疎林などに生息する。イネ科やタデ科、キク科、マメ科等の種子を食べる他、特に雛の餌としてチョウ類の幼虫やバッタ類を捕らえる。地上や藪の小枝の叉に、枯草や草の根などを用いて椀型の巣をつくり繁殖する。
	確認状況	(冬季) 蒲生干潟周辺や貞山堀周辺の 4 地点で合計 10 個体確認された。 (春季) 貞山堀周辺の 1 地点で 2 個体が確認された。 (夏季) 貞山堀周辺で 1 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。

出典：「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社、平成 7 年）

「山溪ハンディ図鑑 7 新版日本の野鳥」（山と溪谷社、平成 26 年）

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

第 8.6-10 表(7) 重要な種の一般生態及び確認状況（鳥類・鳥類相調査）

種名	項目	内容
アオジ	全国の分布状況	本州中部以北、北海道で繁殖する。冬は本州西南部・四国・九州ですごす。
	仙台市内の分布状況	丸田沢、二口、朴沢、旗立、芋沢、広瀬川、名取川、蒲生など
	一般生態	藪の多い疎林、林縁、若木林などを好む。林内の低木層で採食したり、林縁や草地などの明るい所にも出て、地上を跳ね歩き、昆虫類、クモ類、草の種子などを採食する。地上 1~2m 位の藪の枝の又上に乗せるように巣をつくる。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 蒲生干潟及び貞山堀周辺の 3 地点で合計 4 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟周辺の 1 地点で 2 個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟周辺の 1 地点で 4 個体が確認された。

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（保育社、平成 7 年）

「山溪ハンディ図鑑 7 新版日本の野鳥」（山と溪谷社、平成 26 年）

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

第 8.6-10 表(8) 重要な種の一般生態及び確認状況（昆虫類）

種名	項目	内容
アキアカネ	全国の分布状況	国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	沿岸から内陸にかけての各地
	一般生態	平地や丘陵地、低山地の池沼や水田、溝などに生息する。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 堤防沿いや干潟周辺の 9 地点で合計 18 個体が確認された。
ノシメトンボ	全国の分布状況	国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	沿岸から内陸にかけての各地
	一般生態	平地や丘陵地の開放的な池沼や水田、溝などに生息する。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 堤防沿いの 3 地点で合計 5 個体が確認された。
ヤマトマダラバッタ	全国の分布状況	国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する。
	仙台市内の分布状況	仙台市若林区・宮城野区、名取市、岩沼市、亘理町、山本町
	一般生態	海岸の砂地、まれに内陸部の大きな河原の砂地に生息する。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 砂浜 3 地点で合計 3 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。

出典：「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」（東海大学出版会、昭和 63 年）

「生物多様性調査 種の多様性調査 動物分布調査報告書 昆虫（トンボ）類」（環境省、平成 14 年）

「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」（北海道大学出版会、平成 18 年）

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」（宮城県、平成 28 年）

第 8.6-10 表(9) 重要な種の一般生態及び確認状況（昆虫類）

種名	項目	内容
スナヨコバイ	全国の分布状況	国内では北海道、本州に分布する。
	仙台市内の分布状況	本吉町、河北町、名取川河口、亶理町、山元町
	一般生態	海岸砂丘に生育するコウボウムギに生息する。
	確認状況	(春季) 七北田川河口の砂浜 1 地点で 2 個体が確認された。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 確認されなかった。
カワラハンミョウ	全国の分布状況	国内では北海道から九州、伊豆大島に分布する。
	仙台市内の分布状況	仙台市以南の太平洋岸
	一般生態	海岸や河原の砂丘に生息する。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 砂浜の 2 地点で合計 4 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。
ハマヒョウタン ゴミムシダマシ	全国の分布状況	国内では北海道から九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	名取川河口、宮城野区蒲生
	一般生態	砂浜海岸に生息する指標種の甲虫である。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 砂浜の 1 地点で 1 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。

出典：「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 5 昆虫類」（環境省、平成 26 年）  
「原色日本甲虫図鑑（第 2 巻）」（保育社、昭和 60 年）  
「原色日本甲虫図鑑（第 3 巻）」（保育社、昭和 60 年）  
「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」（宮城県、平成 28 年）

第 8.6-10 表(10) 重要な種の一般生態及び確認状況（魚類）

種名	項目	内容
ニホンウナギ	全国の分布状況	琉球列島以北の本州、四国、九州とその周辺諸島、北海道太平洋側に分布する。
	仙台市内の分布状況	七北田川水系、名取川水系の河川中下流域
	一般生態	成魚は沿岸部から河川上流域に幅広く分布する。降河回遊を行い海で産卵する。動物食性で、甲殻類、魚類などを幅広く摂餌する。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 七北田川で 1 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。

出典：「山溪ハンディ図鑑 15 日本の淡水魚」（山と溪谷社、平成 27 年）  
「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

第 8.6-10 表(11) 重要な種の一般生態及び確認状況（魚類）

種名	項目	内容
アユ	全国の分布状況	北海道の天塩川から鹿児島県屋久島まで分布する。
	仙台市内の分布状況	七北田川水系、名取川水系の河川中上流域
	一般生態	秋に河川で生まれた仔稚魚は降海後に越冬し、翌春母川に遡上する。仔稚魚は動物プランクトン食性であるが、変態すると付着藻類食性となってなわばりを持ち始める。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 七北田川で 174 個体が確認された。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 確認されなかった。
ミナミメダカ	全国の分布状況	日本海側では京都以西、太平洋側では岩手県以西の本州、四国、九州、琉球列島、隠岐や壱岐、対馬などの島嶼。
	仙台市内の分布状況	七北田川水系、名取川水系の河川中下流域及びその周辺の水路、溜め池
	一般生態	平野部の河川、池沼、農業用水路などの、流れが緩やかで水生植物が豊かな場所に生息する。浅い水域を好み、表層を群泳する。繁殖期は 4～8 月で、自然下の寿命は約 1 年。雑食性。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 七北田川で 1 個体が確認された。 (冬季) 確認されなかった。
ヒモハゼ	全国の分布状況	青森県以南の本州太平洋岸、四国瀬戸内海側、富山県、九州、対馬、屋久島、種子島、奄美大島、石垣島、西表島。
	仙台市内の分布状況	七北田川河口、井戸浦
	一般生態	河口域や内湾の砂泥底、砂礫底に生息する。ニホンスナモグリやアナジャコなどの無脊椎動物の生息孔を生息場や産卵場として利用する。繁殖期は 5～8 月。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 確認されなかった。 (夏季) 七北田川で 6 個体、蒲生干潟で 1 個体が確認された。 (秋季) 七北田川で 7 個体が確認された。
シロウオ	全国の分布状況	北海道南部から九州までの日本各地
	仙台市内の分布状況	井戸浦
	一般生態	海岸線が入り組んだ、波の穏やかで透明度の高い沿岸に生息する。1～5 月頃、河川に遡上して石の下に巣を作り産卵する。小型の動物プランクトンを食する。
	確認状況	(冬季) 確認されなかった。 (春季) 七北田川で 2 個体が確認された。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 確認されなかった。

出典：「山溪ハンディ図鑑 15 日本の淡水魚」（山と溪谷社、平成 27 年）

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」（宮城県、平成 28 年）

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

第 8.6-10 表(12) 重要な種の一般生態及び確認状況（魚類）

種名	項目	内容
エドハゼ	全国の分布状況	宮城県から宮崎県の太平洋沿岸、瀬戸内海沿岸、兵庫県日本海側、福岡県から熊本県の有明海・八代海沿岸に分布する。
	仙台市内の分布状況	北上川河口、松島湾双観山、七北田川河口、井戸浦、鳥の海
	一般生態	前浜干潟や河口干潟の還元層が形成されていない砂底に生息し、チクゼンハゼに比べて泥質を好む。繁殖期は3～5月で、ニホンスナモグリやアナジャコの生息孔に産卵すると考えられる。多くは生後約1年で成熟する。
	確認状況	(冬季) 蒲生干潟の南側で1個体が確認された。 (春季) 蒲生干潟で1個体が確認された。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 確認されなかった。

出典：「山溪ハンディ図鑑 15 日本の淡水魚」（山と溪谷社、平成 27 年）

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」（宮城県、平成 28 年）

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

第 8.6-10 表(13) 重要な種の一般生態及び確認状況（底生動物）

種名	項目	内容
ウミニナ	全国の分布状況	北海道南部から九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	万石浦、松島奥部
	一般生態	干潟の陸側に近いところからヨシ原の下や転石帯までに分布する。堆積物食。
	確認状況	(春季) 蒲生干潟北側の砂泥底部 1 地点で 2 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟北側の砂泥底部 1 地点で 2 個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟北側の砂泥底部 1 地点で 1 個体が確認された。
サザナミツボ	全国の分布状況	陸奥湾・男鹿半島から南西諸島（奄美大島、沖縄島）に分布する。
	仙台市内の分布状況	蒲生干潟、鳥の海、水戸辺川河口、松川浦
	一般生態	内湾奥部河口汽水域の砂泥底において、干潮時に生じた水たまりなど止水中に見られ、砂泥に半ば埋もれた転石下に付着する。砂泥底の表層を匍匐することもある。
	確認状況	(春季) 蒲生干潟の 5 地点、七北田川河口の 1 地点で、アナジャコの巣孔内から複数個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟の 5 地点、七北田川河口の 1 地点で、アナジャコの巣孔内から複数個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟中央側の 1 地点で、アナジャコ類の巣孔内から 3 個体が確認された。

出典：「干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック」（東海大学出版会、平成 24 年）

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」（宮城県、平成 28 年）

第 8.6-10 表 (14) 重要な種の一般生態及び確認状況 (底生動物)

種名	項目	内容
クリイロカワザンショウガイ	全国の分布状況	陸奥湾から種子島に分布する。
	仙台市内の分布状況	万石浦、松島湾、蒲生干潟、井戸浦、広浦、鳥の海
	一般生態	内湾奥部河口汽水域のヨシ原内やその周囲の泥底・砂泥底表層や転石・漂流物の下等に生息する。干潮時の汀線から比較的遠く乾燥した場所を好み、フトヘナタリと同所的に見られることが多い。
	確認状況	(春季・夏季・秋季) 蒲生干潟及び七北田川河口の広域で、ヨシ原内の礫下、流木下等から確認された。
ツブカワザンショウガイ	全国の分布状況	宮城県志津川湾から九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	津谷川河口、万石浦、松島湾、広浦。
	一般生態	内湾奥の潮間帯上部で転石などに付着して生息する。ヨシ原の中には見られない。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 七北田川の貞山掘合流部より上流側の水際転石周辺で、1 個体が確認された。
ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ	全国の分布状況	本州 (陸奥湾以南) から九州の太平洋岸、瀬戸内海、九州西岸 (博多湾から鹿児島湾、有明海を含む) に分布する。
	仙台市内の分布状況	仙台湾沿岸
	一般生態	内湾奥部河口汽水域のヨシ原内やその周囲の泥底・砂泥底表層や転石・漂着物の下等に生息する。
	確認状況	(春季) 七北田川の貞山掘合流部より上流側のヨシ原 3 地点で、転石下や流木下等から確認された。 (夏季) 七北田川の貞山掘合流部より上流側のヨシ原 3 地点で、転石下や流木下等から確認された。 (秋季) 蒲生干潟の 3 地点、七北田川の貞山掘合流部より上流側のヨシ原 3 地点で、転石下や流木下等から確認された。
ヨシダカワザンショウガイ	全国の分布状況	北海道南部、下北半島、八郎潟から九州南部に分布する。
	仙台市内の分布状況	仙台湾岸
	一般生態	河口汽水域の高潮帯から飛沫帯の泥底・砂泥底に生じたヨシ原内部やその上部に接した植生の根元、落葉・漂着物等の下に生息する。とくに、河川の土手のやや乾燥した草むら等、他の汽水性カワザンショウ科の種より数～数十メートル陸地側を好む。
	確認状況	(春季・夏季・秋季) 蒲生干潟及び七北田川河口の広域で、ヨシ原内の高潮位転石下、流木下、ヨシ落葉下等から確認された。

出典：「干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック」(東海大学出版会、平成 24 年)  
「東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査」(環境省、平成 26 年～平成 29 年)  
「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(宮城県、平成 28 年)

第 8.6-10 表 (15) 重要な種の一般生態及び確認状況 (底生動物)

種名	項目	内容
カワザンショウガイ属(マツシマカワザンショウ、マンゴクウラカワザンショウ、マツカワウラカワザンショウのいずれか)	全国の分布状況	マツシマカワザンショウは波津々浦、マンゴクウラカワザンショウは万石浦、マツカワウラカワザンショウは松川浦、鳥の海、広浦に分布する。
	仙台市内の分布状況	マツシマカワザンショウは波津々浦、マンゴクウラカワザンショウは万石浦、マツカワウラカワザンショウは鳥の海及び広浦
	一般生態	3種とも内湾奥部の平坦な砂泥質干潟中・低潮帯の表層に生息する。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 蒲生干潟南側の泥底部 1 地点で、6 個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟南側の泥底部 1 地点で、約 20 個体が確認された。
マツシマコメツブ	全国の分布状況	三陸以南に分布する。
	仙台市内の分布状況	志津川湾、万石浦、松島湾
	一般生態	干潟周辺から水深 30m の砂泥底に生息する。
	確認状況	(春季) 蒲生干潟南側の泥底部 1 地点、七北田川河口の泥底部 1 地点で、合計 3 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟南側の泥底部 2 地点で、合計約 11 個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟南側の泥底部で、1 個体が確認された。
ウネナシトマヤガイ	全国の分布状況	津軽湾以南に分布する。
	仙台市内の分布状況	長面浦、万石浦、松島湾
	一般生態	汽水域潮間帯の礫などに足糸で付着し生息する。
	確認状況	(春季) 蒲生干潟南側の泥底部 1 地点で、1 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟南側の転石上 1 地点で、7 個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟南側の転石上 1 地点で、1 個体が確認された。
ヤマトシジミ	全国の分布状況	北海道から九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	北上川河口、蒲生干潟、井戸浦、広浦
	一般生態	河口や淡水の影響する内湾に生息する。
	確認状況	(春季) 七北田川の貞山掘合流部より上流側の砂泥底部 2 地点で、合計 2 個体が確認された。 (夏季) 七北田川の貞山掘合流部から上流側の砂泥底部 2 地点で、合計 4 個体が確認された。 (秋季) 七北田川の貞山掘合流部から上流側の砂泥底部 2 地点で、合計 4 個体が確認された。

出典：「干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック」(東海大学出版会、平成 24 年)  
「東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査」(環境省、平成 26 年～平成 29 年)  
「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(宮城県、平成 28 年)  
「日本近海産貝類図鑑 第二版」(東海大学出版部、平成 29 年)



第 8.6-10 表 (16) 重要な種の一般生態及び確認状況 (底生動物)

種名	項目	内容
サビシラトリガイ	全国の分布状況	北海道から九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	長面浦、万石浦、蒲生干潟、広浦、鳥の海
	一般生態	内湾、河口域の中・低潮帯～水深 10m の泥底・砂泥底に生息する。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 確認されなかった。 (秋季) 蒲生干潟北側の泥底部 1 地点で、1 個体が確認された。
ヒメシラトリガイ	全国の分布状況	北海道から九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	南三陸沿岸から仙台湾にかけての各地の干潟
	一般生態	淡水の影響の強い内湾奥の泥底に潜って生息する。アマモ場周辺の泥底にも見られる。
	確認状況	(春季) 蒲生干潟南側の泥底部の 2 地点で、合計 4 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟南側の泥底部の 2 地点で、合計 10 個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟南側の泥底部の 2 地点で、合計 2 個体が確認された。
マテガイ	全国の分布状況	全国的に分布する。
	仙台市内の分布状況	南三陸から仙台湾
	一般生態	干潟の沖側の砂底に深く潜って生息する。外海に面した広い前浜干潟に多い。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 蒲生干潟南側の泥底部の 2 地点で、合計 7 個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟南側の泥底部の 2 地点で、合計 3 個体が確認された。
オオノガイ	全国の分布状況	北海道から九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	万石浦、松島湾、仙台湾沿岸の干潟
	一般生態	内湾の最奥部の泥砂質干潟に深く潜って生息する。濾過食。
	確認状況	(春季) 蒲生干潟中央部から北側の砂泥底部 4 地点で、合計 10 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟南側の泥底部の 2 地点で、合計 12 個体が確認された。 (秋季) 蒲生干潟の泥底部の 3 地点で、合計 5 個体が確認された。

出典：「干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック」(東海大学出版会、平成 24 年)  
「東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査」(環境省、平成 26 年～平成 29 年)  
「蒲生干潟自然再生全体構想」(環境省、平成 18 年)  
「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(宮城県、平成 28 年)

第 8.6-10 表 (17) 重要な種の一般生態及び確認状況 (底生動物)

種名	項目	内容
イトメ	全国の分布状況	北海道から沖縄に分布する。
	仙台市内の分布状況	津谷川河口干潟、北上川 (追波川) のヨシ原、蒲生干潟、井土浦、鳥の海
	一般生態	河川汽水域の高潮帯 (ヨシ原など) の砂泥底に穴居する。汽水域に隣接する淡水域に出現することもある。主に 10~11 月の大潮の日没後満潮直後に、生殖変態した体前部が水中に泳ぎ出し、放卵放精を行う。初期発生のためには高塩分環境を必要とする。
	確認状況	(春季) 七北田川河口砂泥底部の広域で確認された。 (夏季) 七北田川の貞山掘合流部から上流側の砂泥底部 4 地点で、合計 13 個体が確認された。 (秋季) 七北田川の貞山掘合流部から上流側の砂泥底部 5 地点で、合計 17 個体が確認された。
ユムシ	全国の分布状況	北海道から九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	万石浦、松島湾、蒲生干潟、鳥の海
	一般生態	潮間帯から潮下帯の砂泥底に U 字型の巣穴を掘って生息する。干潟では、巣穴の深さは寒冷期には 15~30cm だが、初夏には 1m 以上になる。分布の中心は潮下帯と考えられる。冬に生殖。
	確認状況	(春季) 蒲生干潟中央部の干出した砂泥底部で、1 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟中央部の干出した砂泥底部で、1 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。
マメコブシガニ	全国の分布状況	青森県陸奥湾から奄美大島に分布する。
	仙台市内の分布状況	万石浦、松島湾、井戸浦、広浦、鳥の海
	一般生態	内湾の砂質~砂泥質の干潟に生息し、滞筋に多く見られる。干潟を横ではなく縦に歩き、夏の初めには、雌を抱いた雄を見かけることが多い。
	確認状況	(春季) 蒲生干潟中央部の干出した砂泥底部の 1 地点で、2 個体が確認された。 (夏季) 七北田川河口の砂泥底部で 1 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。
アカテガニ	全国の分布状況	青森県から九州に分布する。
	仙台市内の分布状況	津谷川河口、万石浦、蒲生干潟、井戸浦、広浦など
	一般生態	干潟の後背地のヨシ原やさらに陸側の土手や松林などの山林を生息地とする。夏期の繁殖期には抱卵した雌が幼生をかえすため、大潮の夜に海辺まで降りてくる。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 蒲生干潟及び七北田川河口の広域で、ヨシ原内の転石下、流木下等から確認された。 (秋季) 蒲生干潟のヨシ原内の 2 地点で、合計 2 個体が確認された。

出典：「干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック」(東海大学出版会、平成 24 年)  
「東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査」(環境省、平成 26 年~平成 29 年)  
「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(宮城県、平成 28 年)

第 8.6-10 表 (18) 重要な種の一般生態及び確認状況 (底生動物)

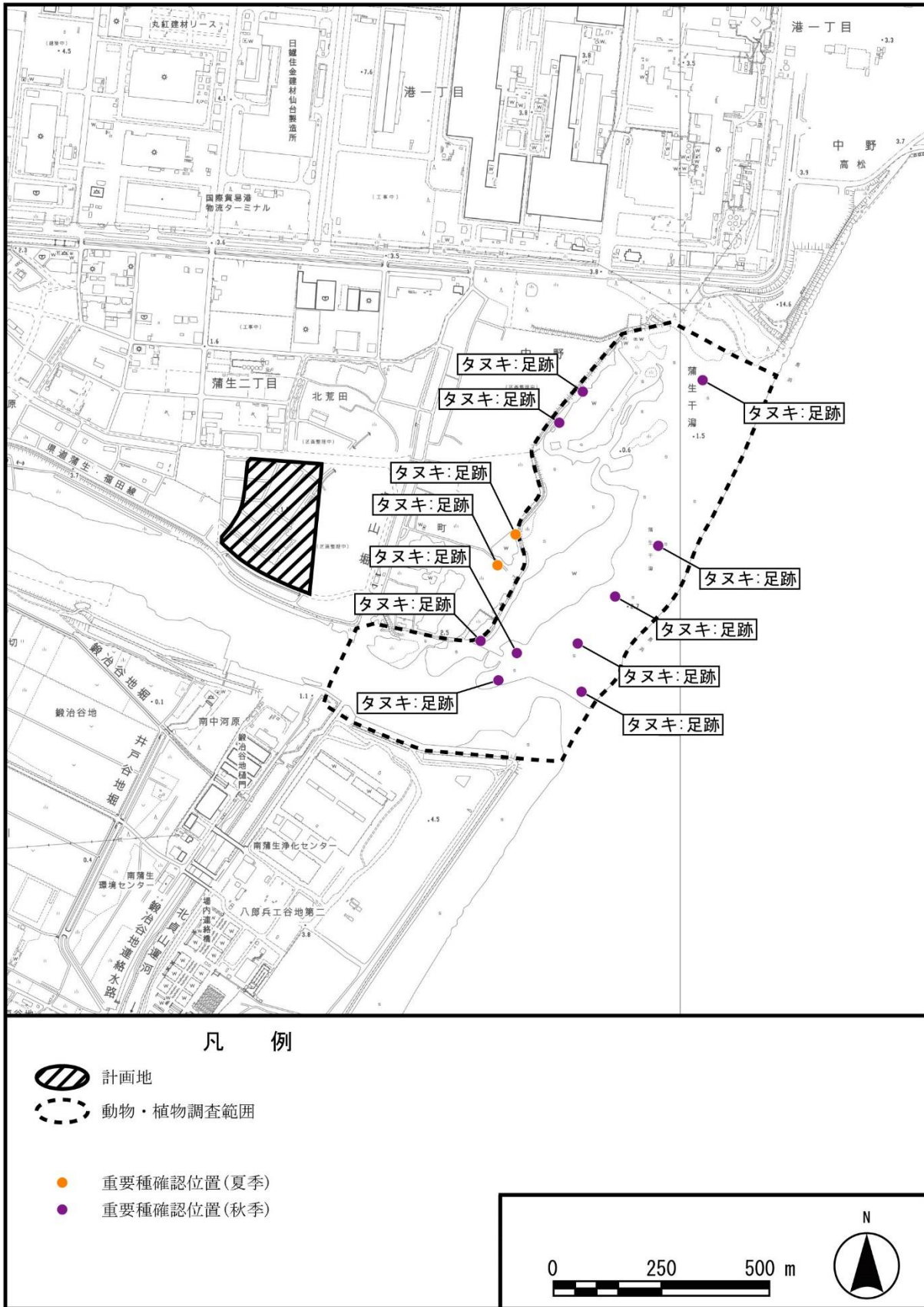
種名	項目	内容
トリウミアカイ ソモドキ	全国の 分布状況	青森県大湊湾から八重山諸島西表島に分布する。
	仙台市内の 分布状況	津谷川河口、鳥の海
	一般生態	砂泥質干潟に生息するアナジャコ科甲殻類やスナモグリ科甲殻類の巣穴内に共生する。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 七北田川河口砂泥底部で 1 個体が確認された。 (秋季) 確認されなかった。
アリアケモドキ	全国の 分布状況	北海道から九州、奄美大島、沖縄島に分布する。
	仙台市内の 分布状況	津谷川河口、北上川河口、蒲生干潟、井戸浦、広浦、鳥の海
	一般生態	河川汽水域の泥質干潟や周辺の滞筋に生息する。活動は夜間の冠水下でみられる。繁殖期は地域により異なり、徳島県吉野川や奄美大島では冬期で、和歌山県富田川では夏期となる。
	確認状況	(春季) 蒲生干潟北西側の旧養魚場や七北田川河口砂泥底部の 5 地点で、合計 16 個体が確認された。 (夏季) 蒲生干潟及び七北田川河口の広域で、砂泥底部や転石下から確認された。 (秋季) 蒲生干潟及び七北田川河口の広域で、砂泥底部や転石下から確認された。
スナガニ	全国の 分布状況	岩手県以南に分布する。
	仙台市内の 分布状況	仙台湾沿いの砂浜、南三陸沿岸の砂浜
	一般生態	砂浜の潮間帯上部から潮上帯にかけて生息する。砂浜の満潮線付近に深さ数十 cm の巣穴を掘る。主に夜間に出てきて砂浜を素早く動き回って餌をとる。
	確認状況	(春季) 確認されなかった。 (夏季) 七北田川河口の砂浜で、約 20 個体が確認された。 (秋季) 七北田川河口の砂浜の 1 地点で、2 個体が確認された。

出典：「干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック」(東海大学出版会、平成 24 年)

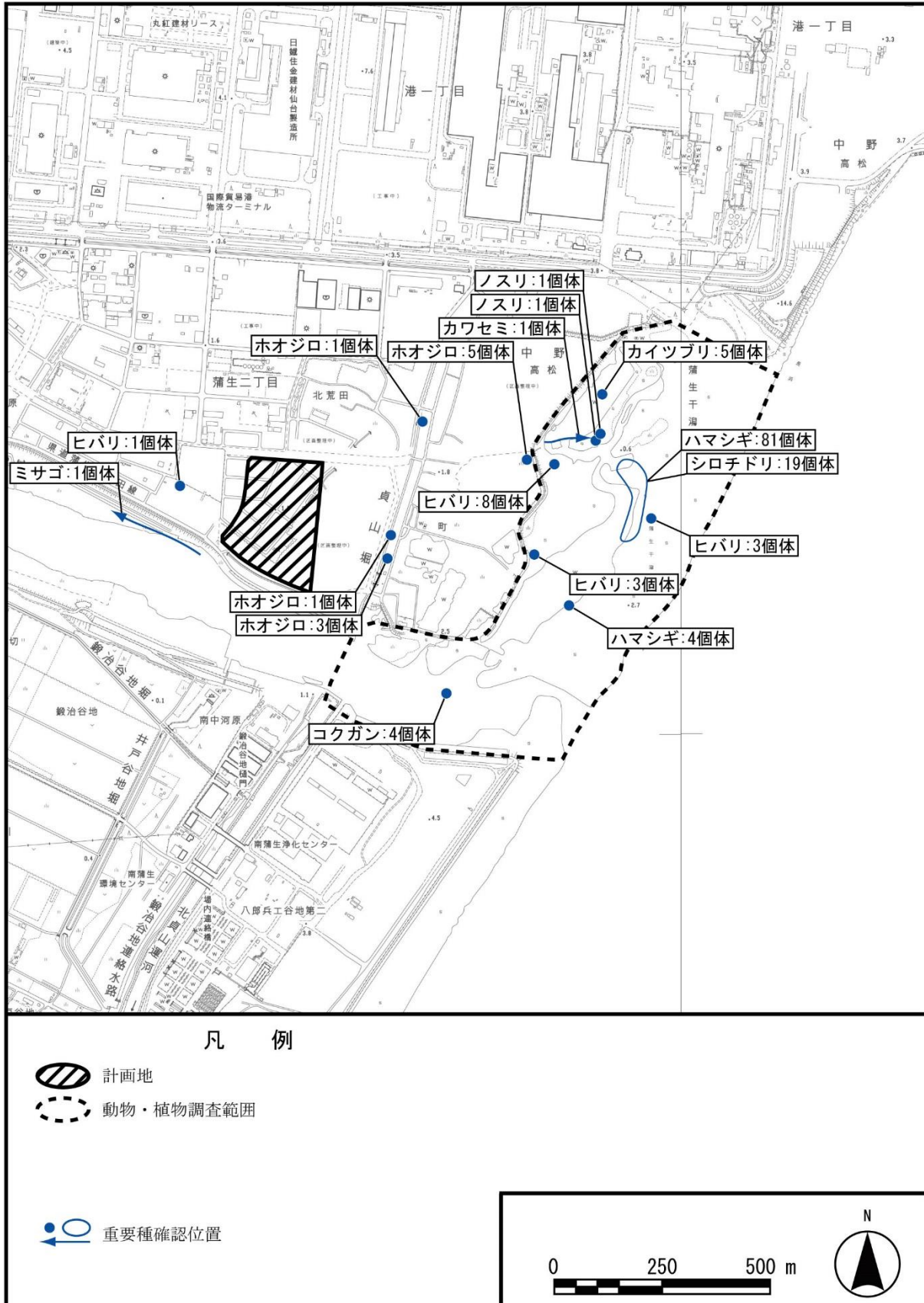
「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(宮城県、平成 28 年)

「海辺の生きもの (山溪フィールドブックス)」(山と溪谷社、平成 6 年)

第 8.6-1 図 重要な種の確認位置（哺乳類）

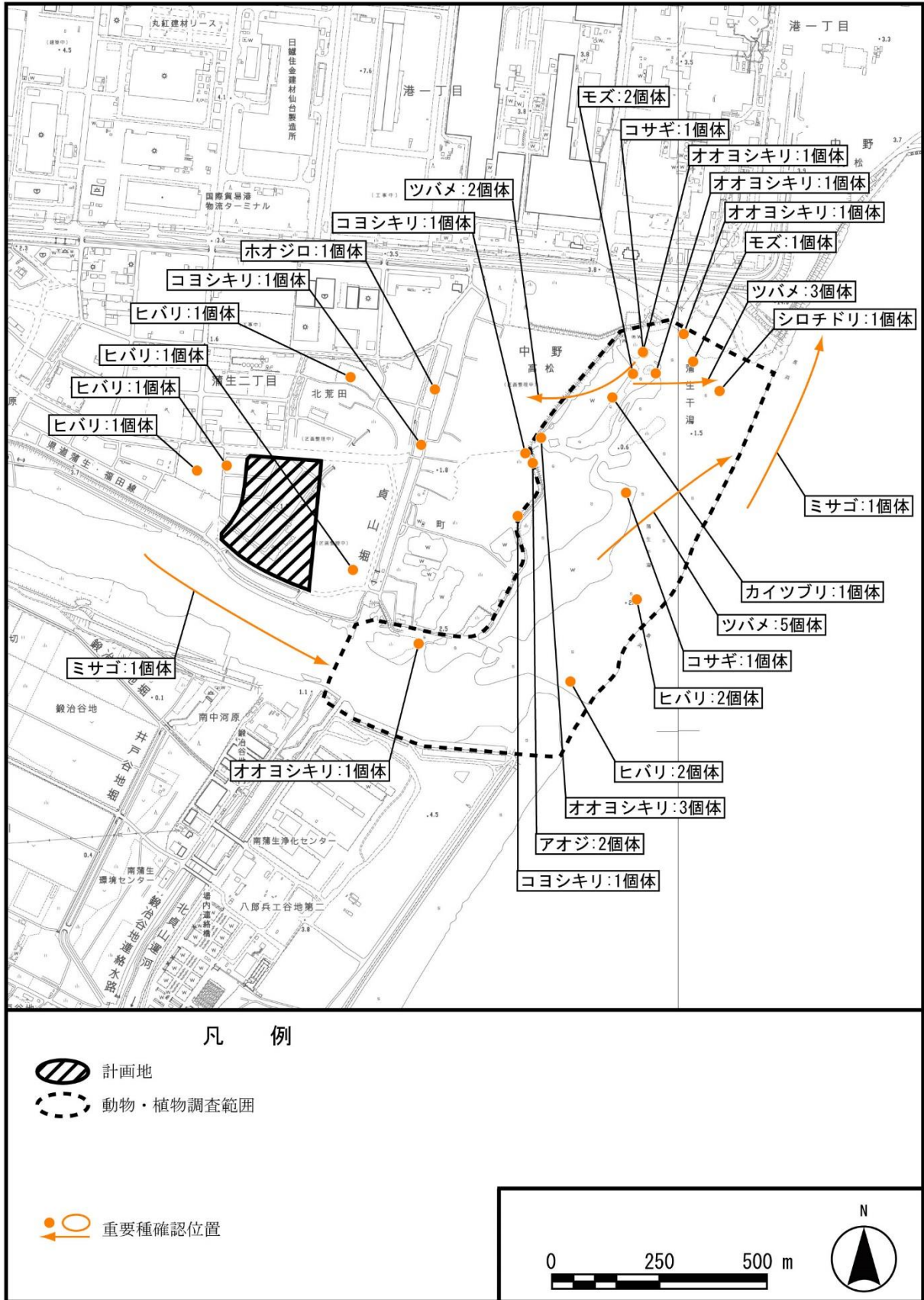


第 8.6-2 図(1) 重要な種の確認位置 (鳥類相調査 冬季)

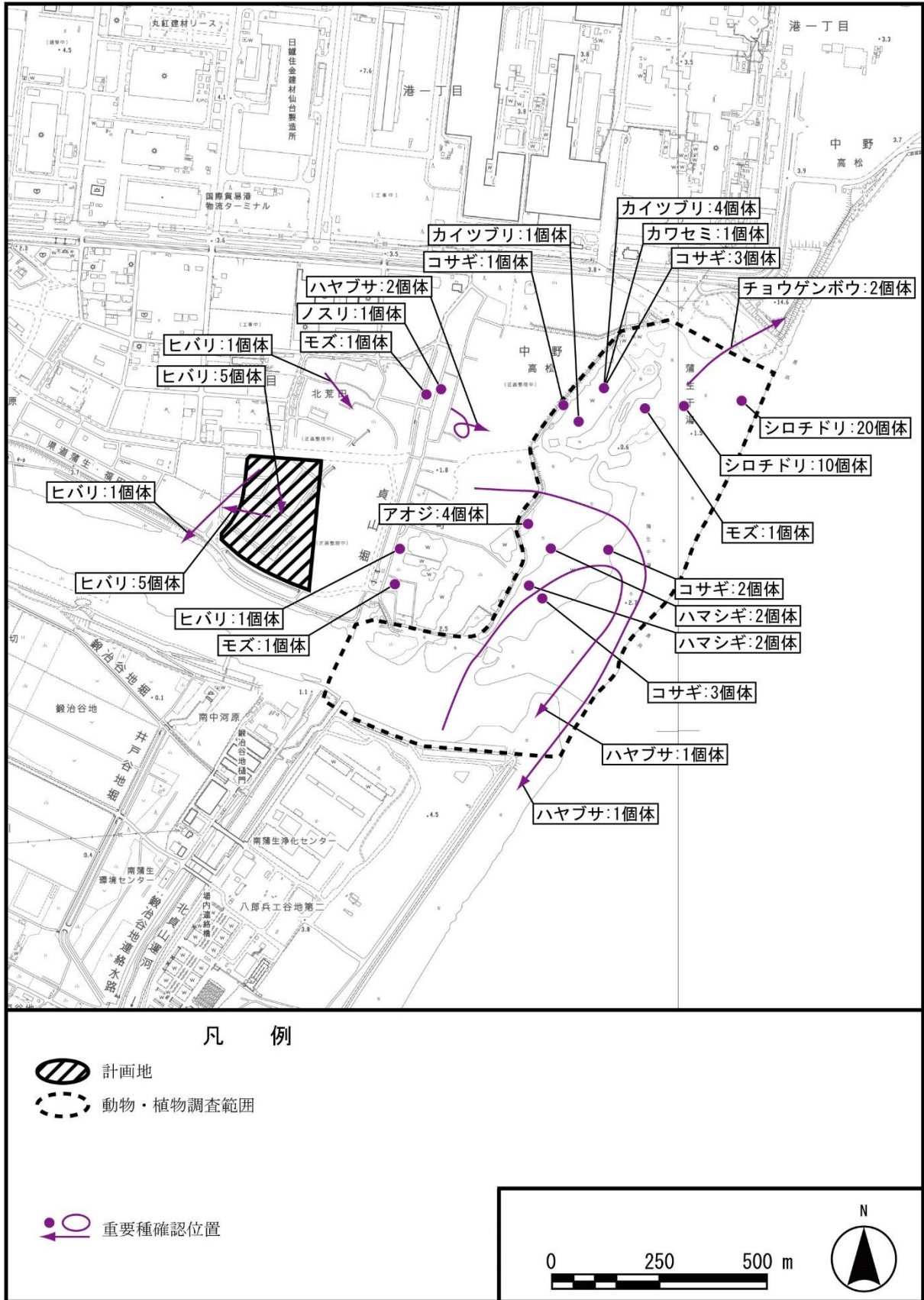




第 8.6-2 図(3) 重要な種の確認位置 (鳥類相調査 夏季)

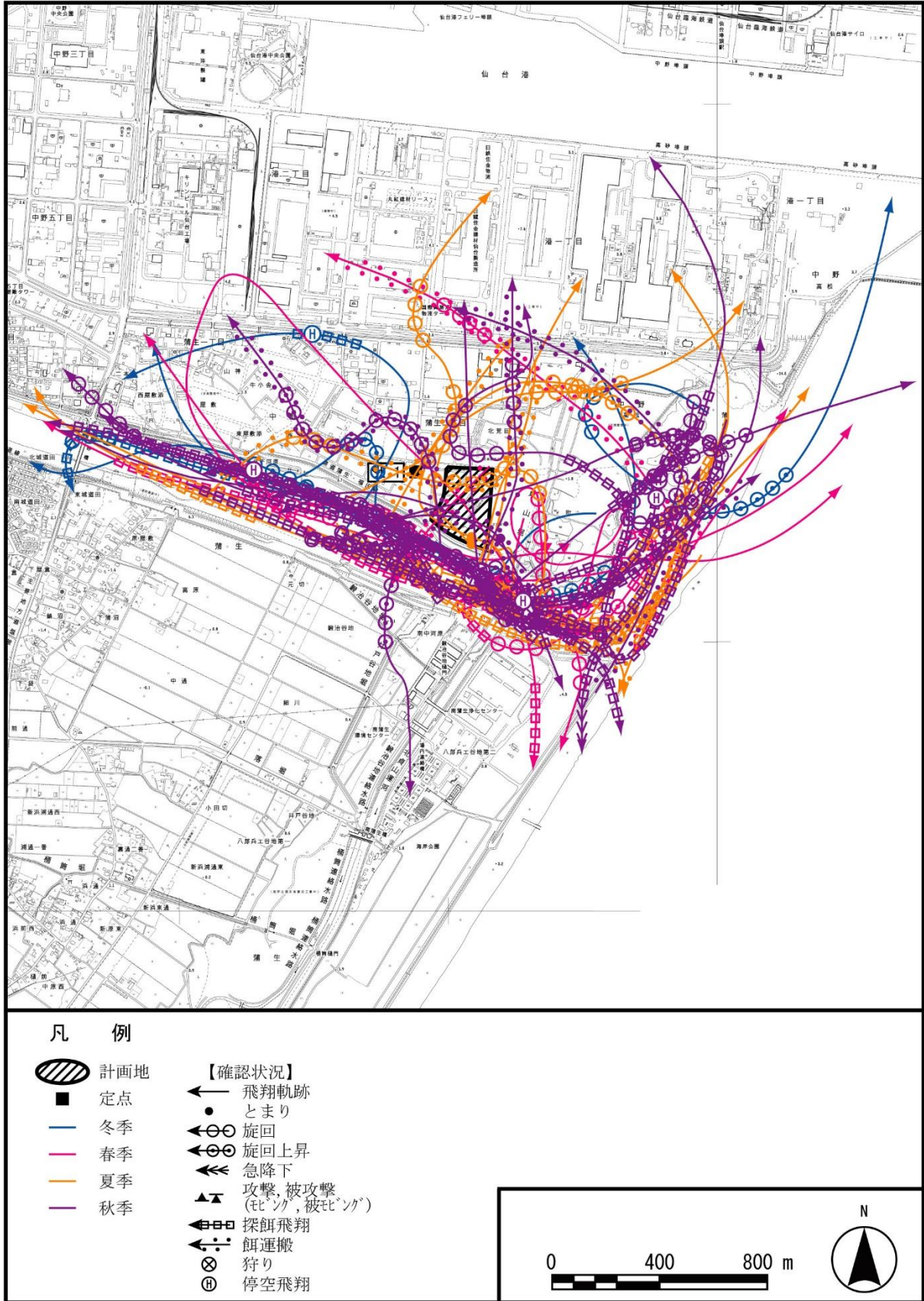


第 8.6-2 図(4) 重要な種の確認位置 (鳥類相調査 秋季)

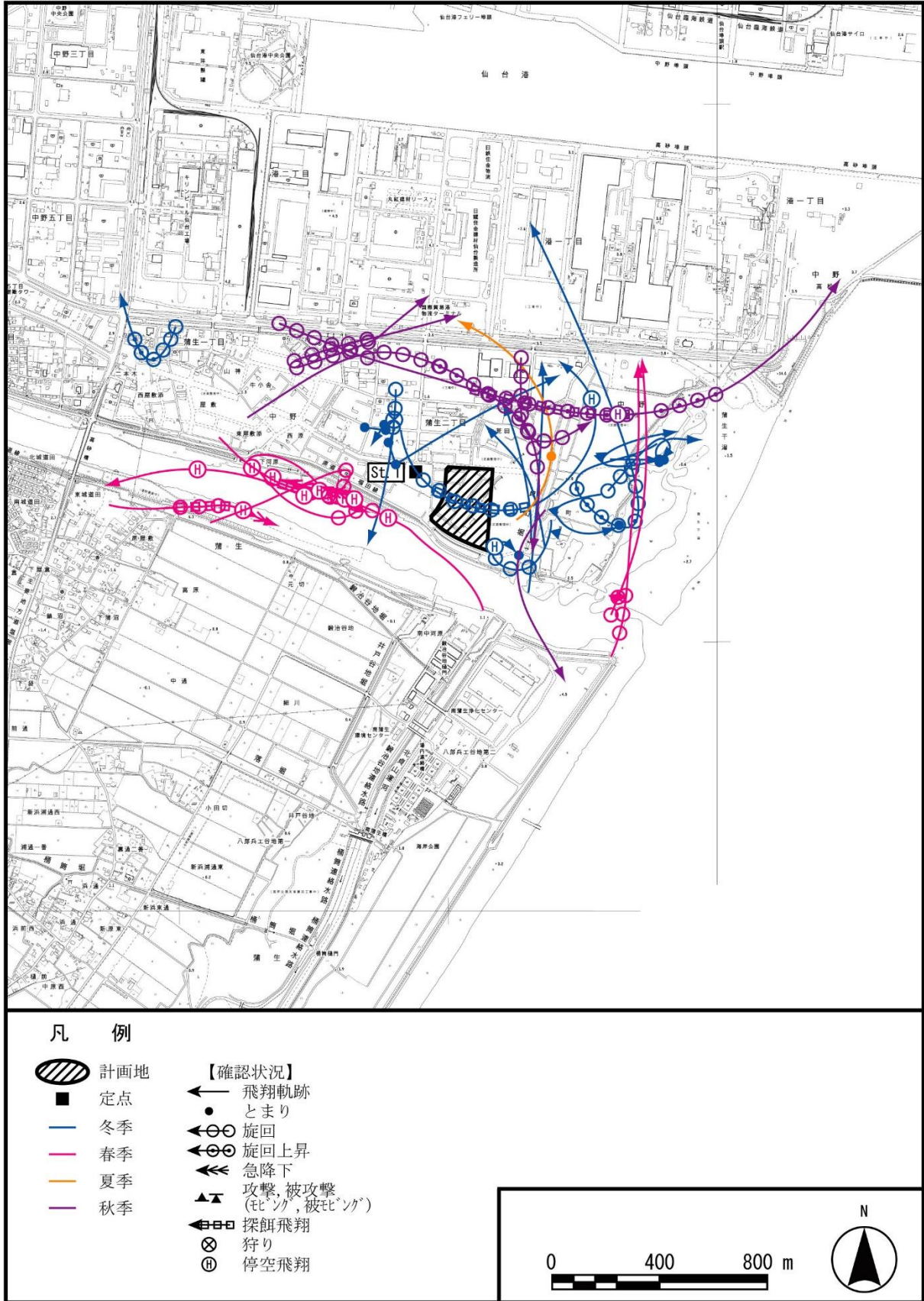




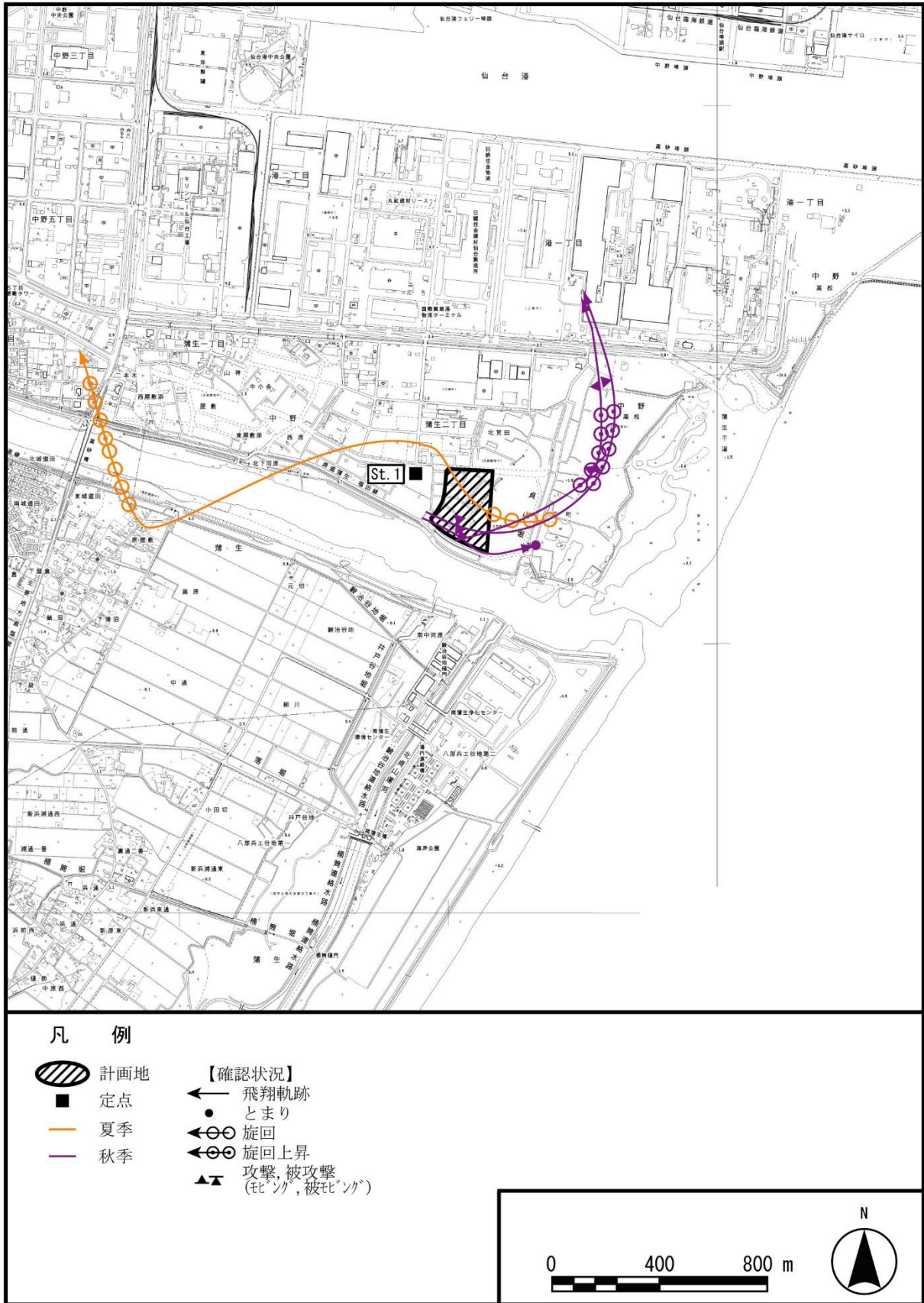
第 8.6-2 図(5) 重要な種の確認位置 (猛禽類調査 ミサゴ)



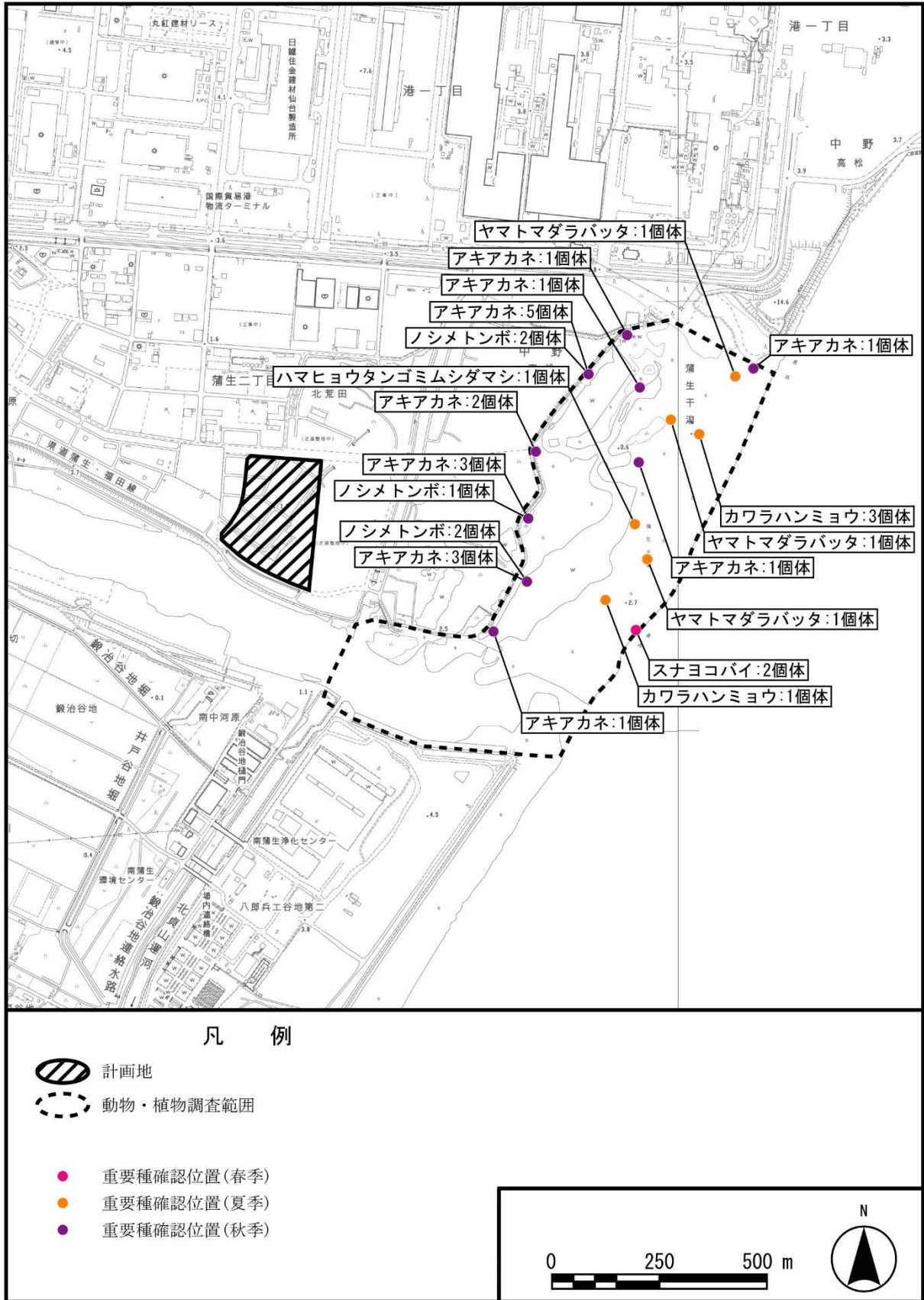
第 8.6-2 図(6) 重要な種の確認位置 (猛禽類調査 ノスリ)



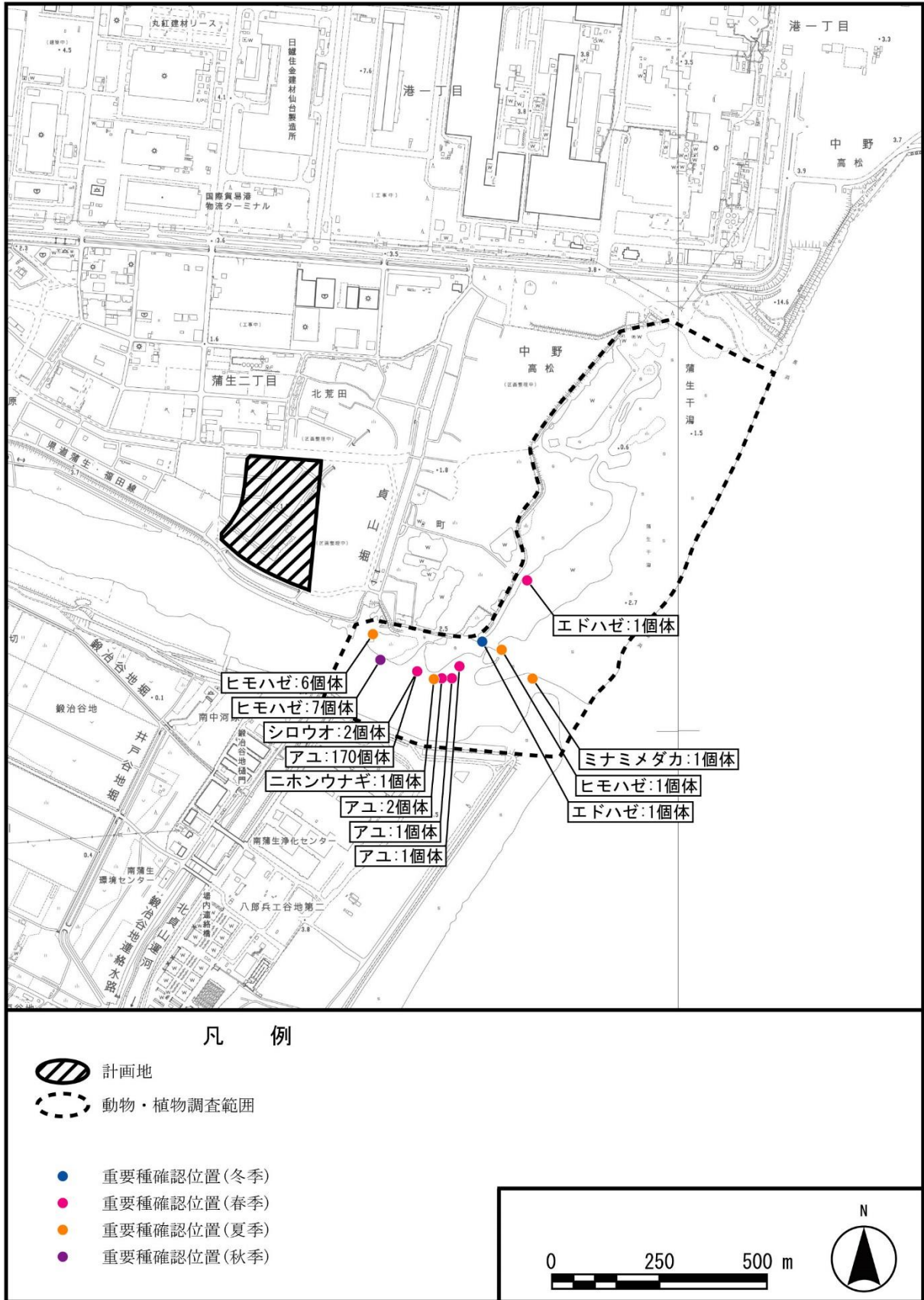
第 8.6-2 図(7) 重要な種の確認位置 (猛禽類調査 チョウゲンボウ)



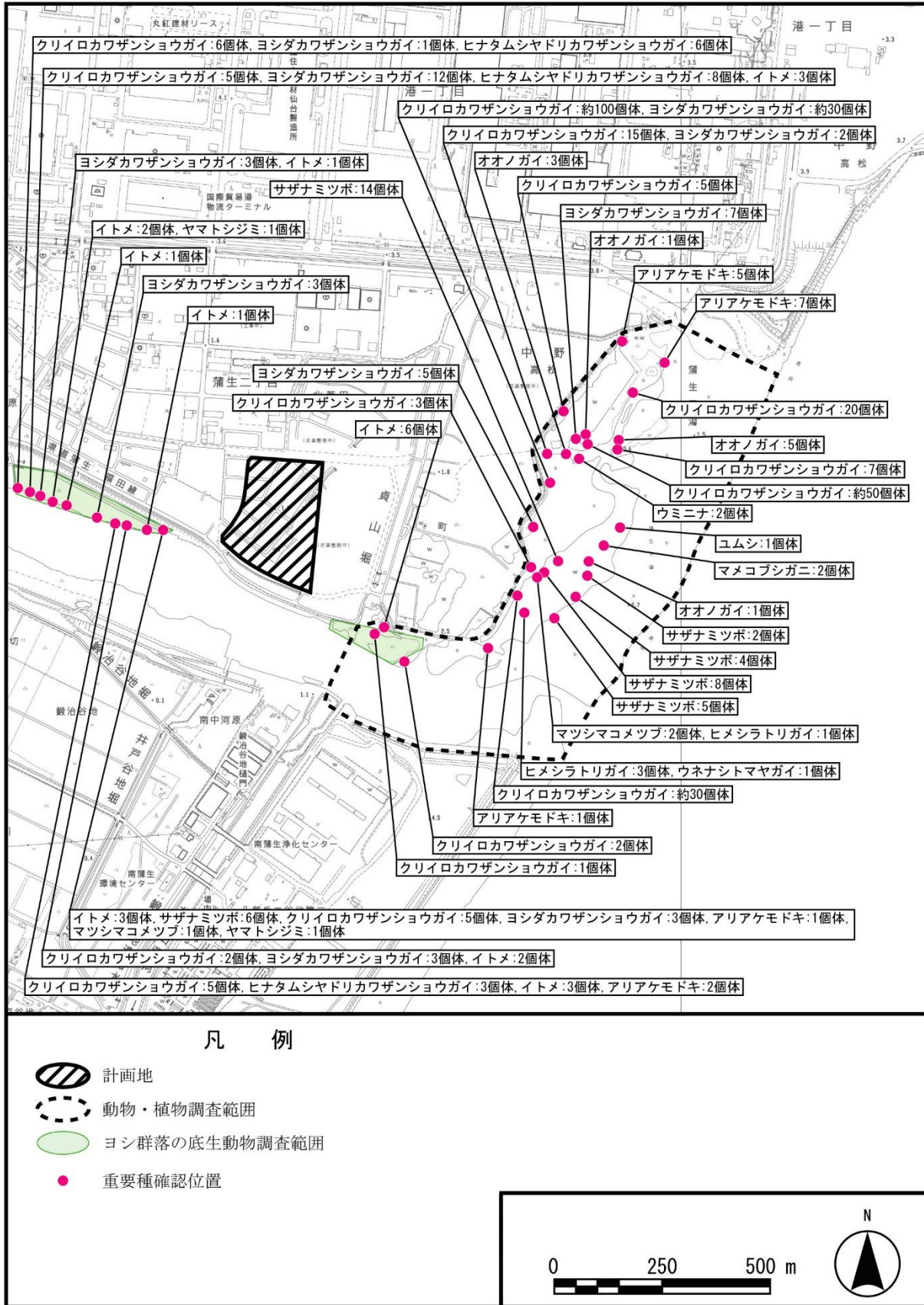
第 8.6-3 図 重要な種の確認位置（昆虫類）



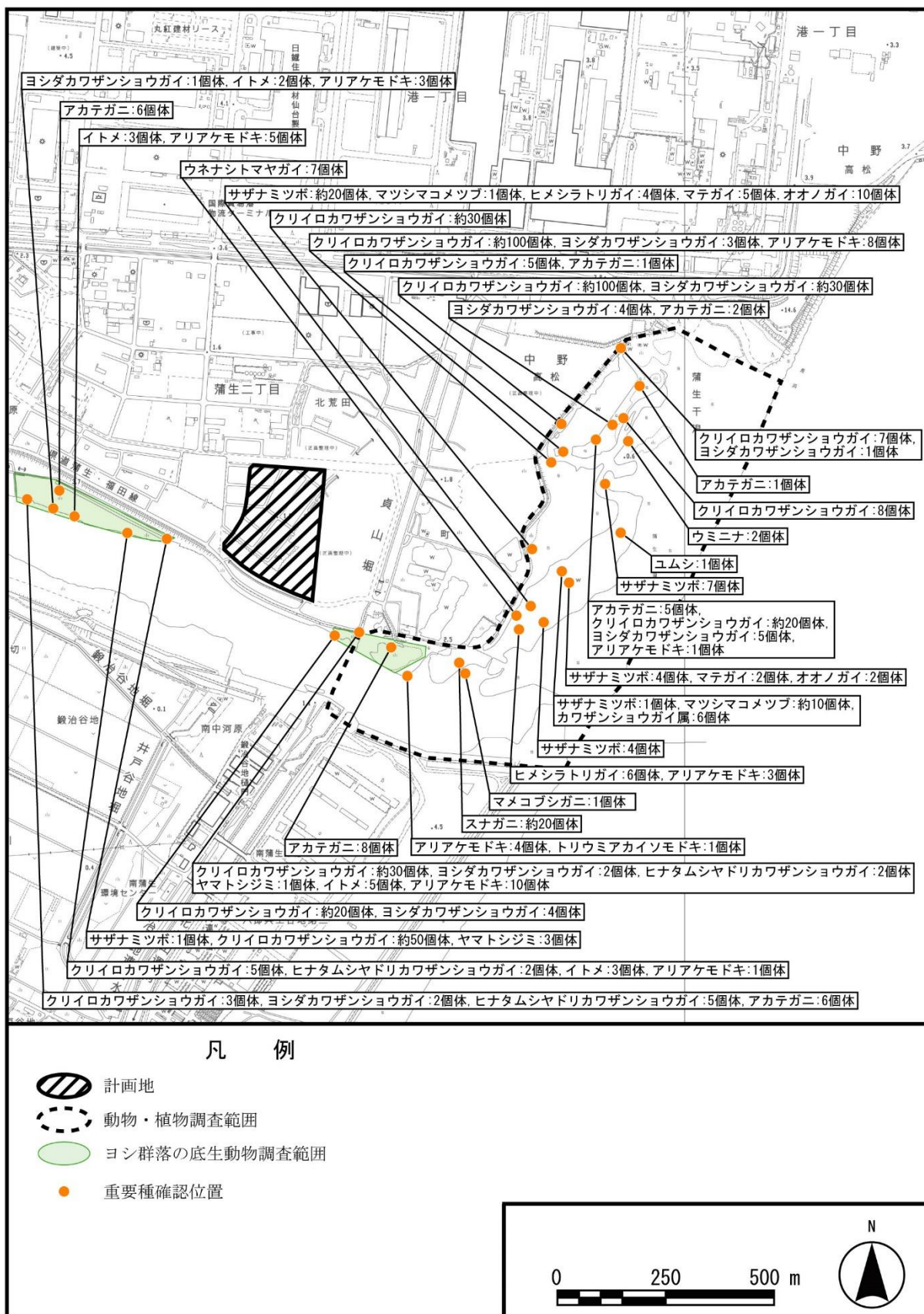
第 8.6-4 図 重要な種の確認位置（魚類）



第 8.6-5 図(1) 重要な種の確認位置 (底生動物 春季)



第 8.6-5 図(2) 重要な種の確認位置 (底生動物 夏季)







## 8.6.2 予測

### 1. 存在による影響（工作物等の出現）【簡略化項目】

#### (1) 予測内容

予測内容は、工作物等の出現による鳥類への影響とした。

#### (2) 予測地域等

鳥類への影響が想定される計画地、その他周辺約 200m の範囲及び蒲生干潟並びに七北田川河口上空を含んだ範囲とした。

#### (3) 予測対象時期

工事が完了した時点とした。

#### (4) 予測方法

文献調査結果及び現地調査結果（鳥類）を踏まえ、工作物等の出現による鳥類に対する影響を、保全対策等も勘案して予測した。予測対象は、計画地及びその上空で確認された重要な種（ヒバリ、ミサゴ、ノスリ及びチョウゲンボウ）とした。

#### (5) 予測結果

ヒバリについては、現地調査では四季をとおして確認され、計画地では春季及び秋季に飛翔が確認されたが、計画地周辺でも広く確認された。工作物等の出現により生息場所の一部が消失するが、ヒバリは計画地周辺でも広く確認されている。また、新たに設置する緑地は在来種の常緑樹を植栽するなど、できる限り周囲の生態系や景観に配慮した緑化計画とすること、緑地は設置後 3 年程度は生育状況を確認し、必要に応じて追加植栽すること、緑地については剪定・施肥・病虫害防除・除草等の適切な維持管理を行い、樹木等の健全な育成を図ることから、ヒバリは、緑地を生息場所の一部として利用することが可能であると考えられる。以上のことから、工作物等の出現によるヒバリへの影響は小さいと予測する。

猛禽類の現地調査では、ミサゴ及びノスリは四季をとおして確認され、チョウゲンボウは夏季及び秋季に計画地及びその周辺で確認されたが、いずれの種も営巣は確認されず、計画地の利用は上空通過のみであった。工作物等の出現により生息場所の一部が消失するが、建屋及び排気筒の高さは可能な限り抑えるとともに、計画構造物は街並みと違和感のない形態・意匠とすることで、周辺に調和するように配慮したものとすること、緑地については、在来種の常緑樹を植栽するなど、できる限り周囲の生態系に配慮した緑化計画とすること、緑地は設置後、3 年程度は生育状況を確認し、必要に応じて追加植栽すること、緑地については剪定・施肥・病虫害防除・除草等の適切な維持管理を行い、樹木等の健全な育成を図ることから、ミサゴ、ノスリ及びチョウゲンボウは緑地を生息場所の一部として利用することが可能であると考えられる。

以上のことから、工作物等の出現によるミサゴ、ノスリ及びチョウゲンボウへの影響は小さいと予測する。

### 2. 供用による影響（施設の稼働）【簡略化項目】

#### (1) 予測内容

予測内容は、施設の稼働による蒲生干潟及び七北田川河口に生息する重要な動物への大気質による影響とした。

## (2) 予測地域等

蒲生干潟及び七北田川河口とした。

## (3) 予測対象時期

発電所の運転が定常状態となり、大気質の影響が最大になる時期とした。

## (4) 予測方法

環境保全及び創造のための措置を踏まえ、現地調査結果と大気質の予測結果の重ね合わせにより予測した。予想対象は、蒲生干潟及び七北田川河口付近で確認された重要な動物とした。

## (5) 予測結果

蒲生干潟及び七北田川河口付近で確認された重要な動物は、哺乳類 1 種、鳥類 20 種、昆虫類 6 種、魚類 6 種、底生動物 21 種であった。

施設の稼働に伴う大気質の予測結果は第 8.6-11 表のとおりである。

本事業による寄与濃度は、二酸化硫黄が 0.00001ppm、二酸化窒素が 0.00002ppm、浮遊粒子状物質が 0.000005mg/m<sup>3</sup> であり、各大気質の将来環境濃度はほとんど変化しない。

以上のことから、供用（施設の稼働）による蒲生干潟及び七北田川河口に生育する重要な動物への影響は小さいと予測する。

第 8.6-11 表 大気質の年平均値の寄与率（蒲生干潟及び七北田川河口）

項目	本事業による寄与濃度	将来環境濃度
	A	B
二酸化硫黄	0.00001	0.001020
二酸化窒素	0.00002	0.009050
浮遊粒子状物質	0.000005	0.031013

注. 将来環境濃度は、現況の環境濃度、他事業寄与濃度及び本事業の寄与濃度の合計である。

### 8.6.3 環境保全及び創造のための措置

#### 1. 存在による影響（工作物等の出現）【簡略化項目】

工作物等の出現に伴う動物の予測結果は、ヒバリ、ミサゴ、ノスリ及びチョウゲンボウのいずれについても影響は小さいものと予測した。

本事業の実施にあたっては、工作物等の出現に伴う動物への影響を可能な限り低減するため、第 8.6-12 表に示す環境保全措置を講ずることとする。

第 8.6-12 表 環境保全及び創造のための措置（存在による影響－工作物等の出現）

環境影響要因	環境保全及び創造のための措置の内容
存在による影響 (工作物等の出現)	<ul style="list-style-type: none"><li>・建屋及び排気筒の高さは可能な限り抑えるとともに、計画構造物は街並みと違和感のない形態・意匠とすることで、周辺に調和するように配慮する。</li><li>・緑地については、在来種の常緑樹を植栽するなど、できる限り周囲の生態系に配慮した緑化計画とする。</li><li>・緑地は設置後、3年程度は生育状況を確認し、必要に応じて追加植栽する。</li><li>・緑地については、剪定・施肥・病害虫防除・除草等の適切な維持管理を行い、樹木等の健全な育成を図る。</li></ul>

## 2. 供用による影響（施設の稼働）【簡略化項目】

施設の稼働に伴う動物の予測結果は、哺乳類 1 種、鳥類 20 種、昆虫類 6 種、魚類 6 種、底生動物 21 種のいずれについても、大気質の予測結果とあわせて検討した結果、影響は小さいものと予測した。

本事業の実施にあたっては、施設の稼働に伴う動物への影響を可能な限り低減するため、第 8.6-13 表に示す環境保全措置を講ずることとする。

第 8.6-13 表 環境保全及び創造のための措置（供用による影響－施設の稼働）

環境影響要因	環境保全及び創造のための措置の内容
供用による影響 （施設の稼働）	<ul style="list-style-type: none"><li>・燃料として使用する木質ペレット等（バイオマス燃料）は、硫黄、窒素及び灰分など基準に沿った良質の燃料を用いることにより、排出ガス濃度を低減する。</li><li>・排ガス濃度を可能な限り下げないように、含有物質の性状等に配慮した良質な燃料の調達に努める。</li><li>・排ガス処理設備として、脱硫・脱硝装置及びバグフィルターを設置し、適切な運転管理及び定期点検を行うことにより、排ガス処理効率を高く維持し、排ガス濃度を低減する。</li><li>・定期的な設備の点検・整備を行うことにより、排出ガス濃度を基準値内に抑える。</li><li>・排出ガス濃度については、ばい煙発生施設に硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじんの排出濃度等に関わる自動測定装置を設置し、常時監視を行う。</li></ul>

## 8.6.4 評価

### 1. 存在による影響（工作物等の出現）【簡略化項目】

#### (1) 回避・低減に係る評価

##### ① 評価方法

予測結果を踏まえ、工作物等の出現に伴う鳥類への影響が保全対策等により、実行可能な範囲内のできる限り回避または低減されているか否かを判定する。

##### ② 評価結果

本事業の実施にあたっては、建屋及び排気筒の高さは可能な限り抑えるとともに、計画構造物は街並みと違和感のない形態・意匠とすることで、周辺に調和するように配慮したものとする。また、新たに設置する緑地については、在来種の常緑樹を植栽するなど、できる限り周囲の生態系に配慮した緑化計画とする。さらに、緑地は設置後、3年程度は生育状況を確認し、必要に応じて追加植栽すること、緑地については剪定・施肥・病虫害防除・除草等の適切な維持管理を行い、樹木等の健全な育成を図ることにより、工作物等の出現による影響の抑制が図られている。

以上のことから、工作物等の出現による鳥類への影響は、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。

### 2. 供用による影響（施設の稼働）【簡略化項目】

#### (1) 回避・低減に係る評価

##### ① 評価方法

予測結果を踏まえ、施設の稼働に伴う重要な動物への影響が保全対策等により、実行可能な範囲内のできる限り回避または低減されているか否かを判定する。

##### ② 評価結果

本事業の実施にあたっては、基準に沿った良質の燃料を用いることにより、排出ガス濃度を低減する。また、排ガス処理設備として、脱硫・脱硝装置及びバグフィルターを設置し、適切な運転管理及び定期点検を行うことにより、処理効率を高く維持し、排ガス濃度を低減する。さらに、定期的な設備の点検・整備を行うことにより、排出ガス濃度を基準値内に抑えること、排出ガス濃度は、ばい煙発生施設に硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじんの排出濃度等に関わる自動測定装置を設置し、常時監視を行うことにより大気質の抑制が図られているため、本事業による寄与濃度は、二酸化硫黄が0.00001ppm、二酸化窒素が0.00002ppm、浮遊粒子状物質が0.000005mg/m<sup>3</sup>であり、各大気質の将来環境濃度はほとんど変化しないことから、供用（施設の稼働）による蒲生干潟及び七北田川河口に生育する重要な動物への影響は小さいと予測する。

以上のことから、施設の稼働に伴う動物への影響は、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。